

令和4（2022）年度  
武蔵野市民意識調査報告書  
＜抜粋版＞

令和5（2023）年3月

武 蔵 野 市

# I 調査の概要

## 1 調査の経緯と目的

武蔵野市では、長期計画・調整計画の策定に先立ち、市民の皆様の市政に対する考えをうかがうことにより現在行っている事務や事業の満足度のほか、新たな行政課題や多様な市民ニーズを把握することを目的に、市民意識調査を実施してきました。

今回の調査結果は、今後の長期計画・調整計画策定を含めた、市政全般に関する基礎資料として活用します。

## 2 調査項目

今回の調査では、以下のテーマについて調査しました。

<調査テーマ>	<問番号>
(1) お住まいの地域のことについて 〔定住のきっかけ、生活環境の評価、定住意向、地域への関心度、近隣との交際状況、地域における行動の状況・意向、地域の活動の参加者を増やすために必要なこと、地域への誇り・愛着、困っていること・不安なこと、手伝ってもらおう相手、相談相手〕	(問1～問11)
(2) 市政に関する情報提供などについて 〔市の情報の入手状況、知りたい行政情報、広報媒体の認知状況〕	(問12～問14)
(3) 市の施策に対する満足度・重要度について 〔市の施策に対する満足度・重要度、市政の現状や問題点、市の将来像〕	(問15～問17)
(4) 新型コロナウイルス感染症に関する施策の満足度などについて 〔新型コロナウイルス感染症に関する施策の満足度・重要度、不安に感じたことや困ったことの内容、生活や行動の変化、今後も利用が促進されるべきオンライン活動、行政サービスのデジタル化に向けて今後市が優先すべき取り組み〕	(問18～問23-1)
(5) 平和・多文化共生について 〔「平和」についての関心の有無、市の平和事業の認知・参加状況、中島飛行機武蔵製作所の認知度、「武蔵野市平和の日」の認知度、平和施策を進めるうえで市が取り組むべきこと、平和の尊さ、戦争の悲惨さを継承するために自身が取り組めること、武蔵野市在住の外国人との関わりの希望、外国人と関わる際の支障、外国人が地域社会の一員として生活するうえでしてほしいと思うこと、地域に外国人が増えることによる影響、多文化共生の社会づくりに向けて行政が力を入れるべきこと〕	(問24～問34)
(6) 自由意見欄 〔平和・多文化共生についての自由回答 市政についての自由回答 新型コロナウイルス感染症についての自由回答〕	

## 3 調査設計

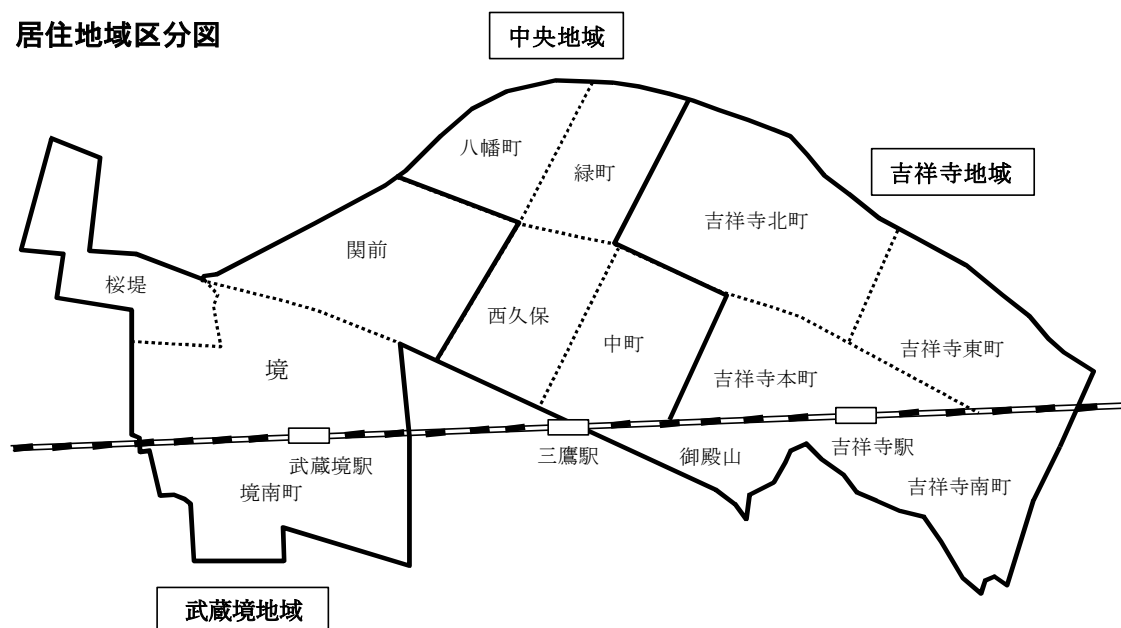
- |          |                             |
|----------|-----------------------------|
| (1) 調査地域 | 武蔵野市全域                      |
| (2) 調査対象 | 武蔵野市に居住する満18歳以上の方           |
| (3) 標本抽出 | 住民基本台帳からの無作為抽出              |
| (4) 調査方法 | 郵送配布－郵送・WEB回収併用             |
| (5) 調査時期 | 令和4（2022）年7月27日（水）～8月26日（金） |

## 4 回収結果

	標本数	回収率	
今回（令和4（2022）年）	4,000標本	36.7%（1,468件）	郵送回収：922件 WEB回収：546件
令和2（2020）年	3,500標本	51.6%（1,805件）	郵送回収：1,244件 WEB回収：561件
平成30（2018）年	3,500標本	43.0%（1,504件）	郵送回収：1,180件 WEB回収：324件

## 5 居住地域区分

### ◆ 居住地域区分図



### ◆ 居住地域該当町表

<地域名>	<地域該当町>
1 吉祥寺地域	吉祥寺東町、吉祥寺南町、御殿山、吉祥寺本町、吉祥寺北町
2 中央地域	中町、西久保、緑町、八幡町
3 武蔵境地域	関前、境、境南町、桜堤

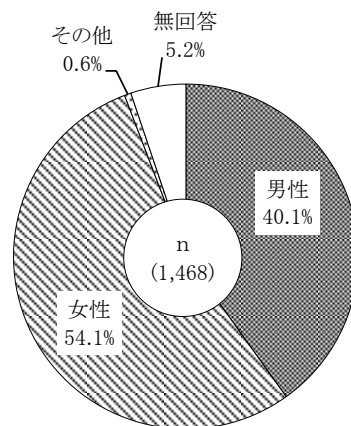
## 6 報告書の見方

- 集計は、原則として小数点第2位を四捨五入しています。したがって、数値の合計が100.0%にならない場合があります。（P. 114～120の満足度、P. 124～130の重要度、P. 131～141のニーズ得点、P. 151～163の満足度は小数点第4位を四捨五入しています。）
- 基数となるべき実数（n）は、設問に対する回答者数です。
- 回答の比率（%）は、その質問の回答者数を基数として算出しています。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがあります。
- 回答者数が30人未満の場合、数値に偏りが出やすいため図を表記するにとどめ、本文では原則として触れていません。
- 各設問の回答者の属性別の表では、無回答数を表記していないため、合計が全体の数値と合わない場合があります。
- いくつかの調査項目は令和2年度（前回調査）と比較しています。
- 表で示している集計結果（P. 44～53など）において、同率数値の項目が複数ある場合は、全体の上位順を基準としています。

## II 調査回答者の属性

### 1 性別

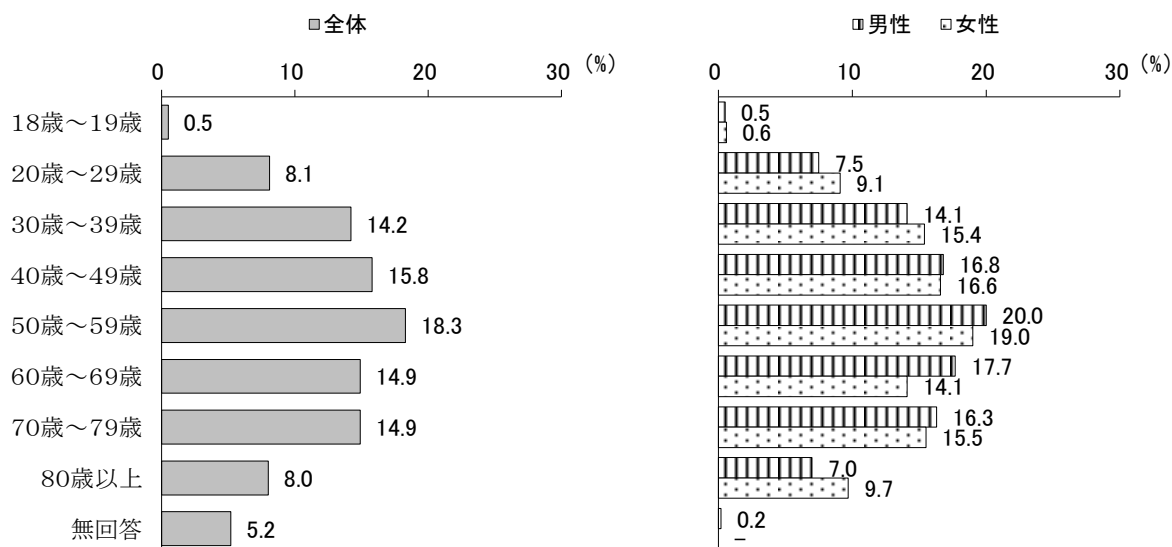
	基 数	構 成 比 (%)
1 男性	589	40.1
2 女性	794	54.1
3 その他	9	0.6
(無回答)	76	5.2
合 計	1,468	100.0



### 2 年齢／性・年齢

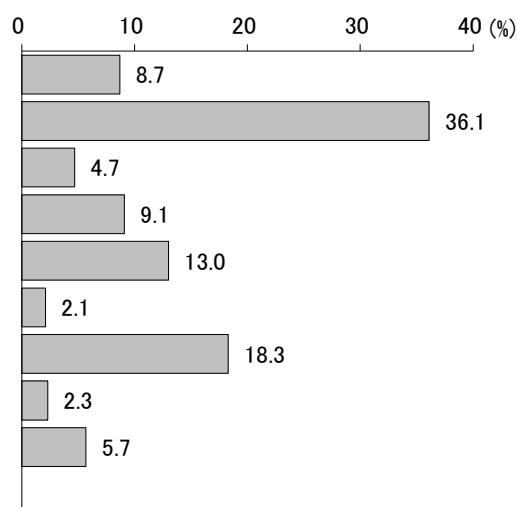
	全 体		男 性		女 性	
	基 数	構 成 比 (%)	基 数	構 成 比 (%)	基 数	構 成 比 (%)
1 18歳～19歳	8	0.5	3	0.5	5	0.6
2 20歳～29歳	119	8.1	44	7.5	72	9.1
3 30歳～39歳	208	14.2	83	14.1	122	15.4
4 40歳～49歳	232	15.8	99	16.8	132	16.6
5 50歳～59歳	269	18.3	118	20.0	151	19.0
6 60歳～69歳	219	14.9	104	17.7	112	14.1
7 70歳～79歳	219	14.9	96	16.3	123	15.5
8 80歳以上	118	8.0	41	7.0	77	9.7
(無回答)	76	5.2	1	0.2	0	0.0
合 計	1,468	100.0	589	100.0	794	100.0

※性別では、男女を足し合わせても、回答数のごく少数のその他・無回答を表記していないため、全体の人数にはなりません。



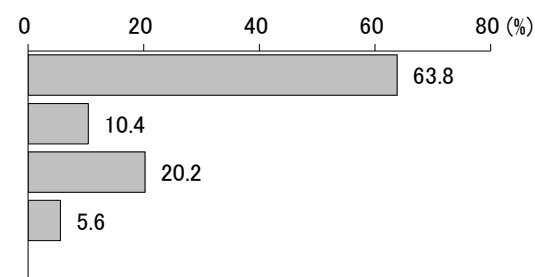
### 3 職業

	基 数	構成比(%)
1 自営業・自由業	127	8.7
2 正社員、正職員	530	36.1
3 契約社員、派遣社員	69	4.7
4 アルバイト、パート	134	9.1
5 家事専業	191	13.0
6 学生	31	2.1
7 無職	268	18.3
8 その他	34	2.3
(無回答)	84	5.7
合 計	1,468	100.0



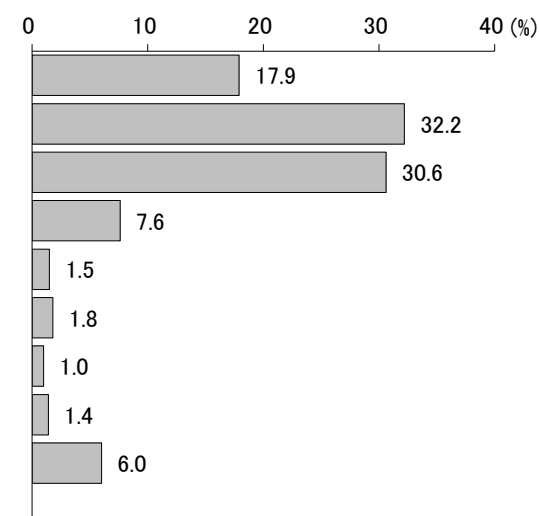
### 4 婚姻状況

	基 数	構成比(%)
1 現在、結婚している	936	63.8
2 過去に結婚していた(離別、死別など)	153	10.4
3 一度も結婚したことはない	297	20.2
(無回答)	82	5.6
合 計	1,468	100.0



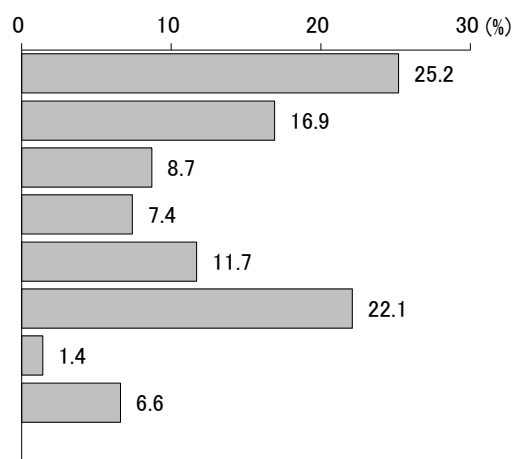
### 5 家族構成

	基 数	構成比(%)
1 ひとり暮らし	263	17.9
2 自分と配偶者(事実婚含む)・パートナー	473	32.2
3 自分と子(2世代世帯)	449	30.6
4 自分と親(2世代世帯)	112	7.6
5 自分と子と孫(3世代世帯)	22	1.5
6 親と自分と子(3世代世帯)	26	1.8
7 祖父母と親と自分(3世代世帯)	15	1.0
8 その他	20	1.4
(無回答)	88	6.0
合 計	1,468	100.0



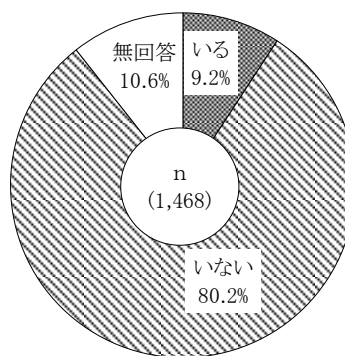
### 5-1 お子さんの就学状況(一番年少の方)

	基 数	構成比(%)
1 小学校入学前	125	25.2
2 小学生	84	16.9
3 中学生	43	8.7
4 高校生	37	7.4
5 専門学校、短期大学、大学生等	58	11.7
6 社会人	110	22.1
7 その他	7	1.4
(無回答)	33	6.6
合 計	497	100.0



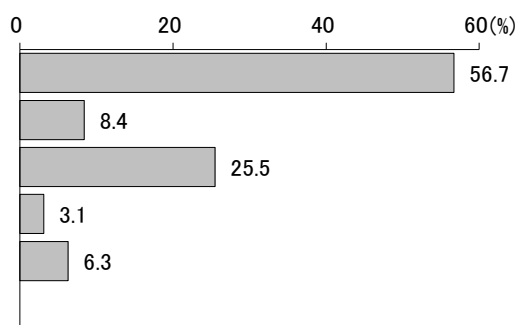
### 6 介護が必要な高齢者や障がい者の同居の有無

	基 数	構成比(%)
1 いる	135	9.2
2 いない	1,177	80.2
(無回答)	156	10.6
合 計	1,468	100.0

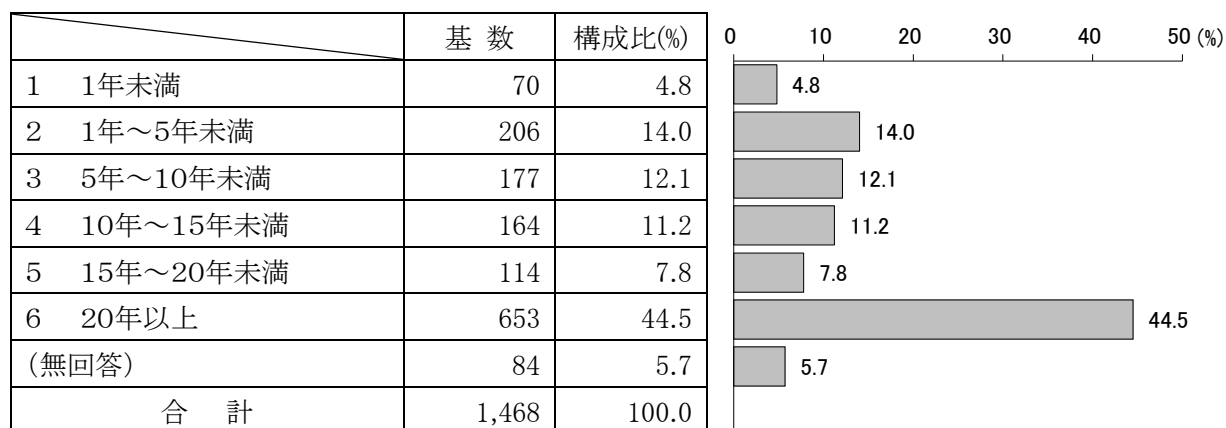


### 7 日中最も多くの時間を過ごす場所

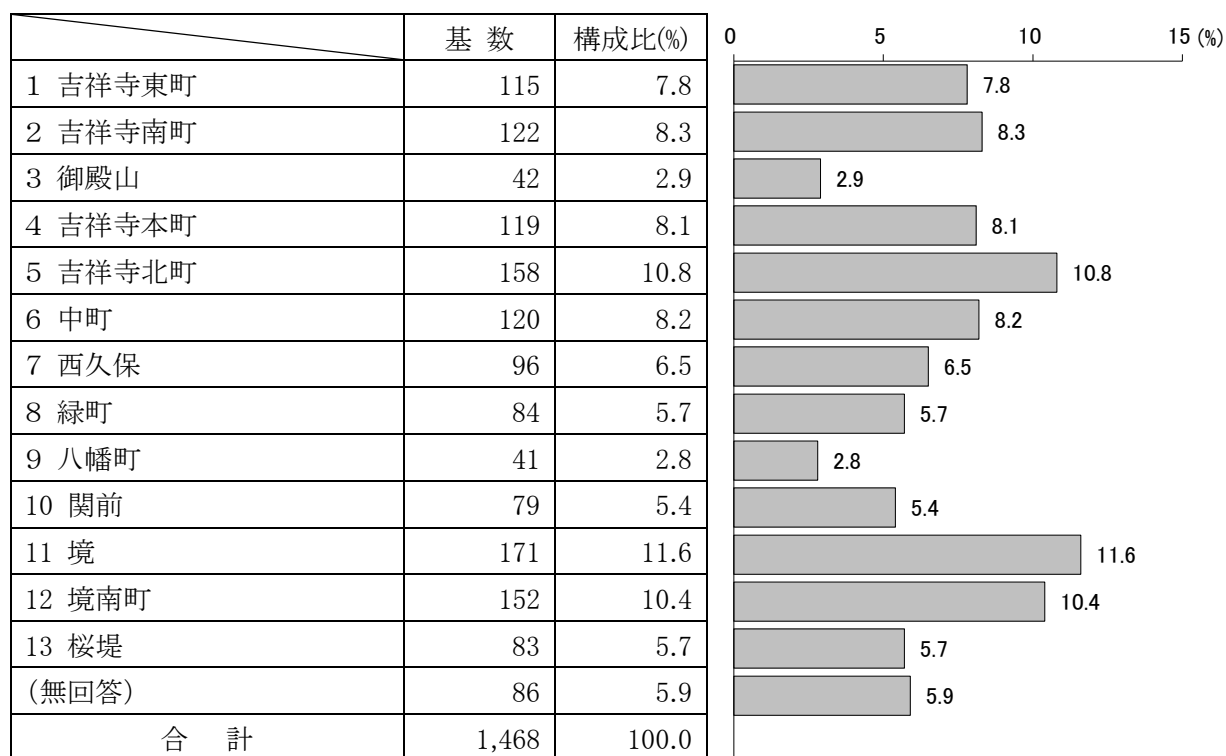
	基 数	構成比(%)
1 武蔵野市内	832	56.7
2 武蔵野市以外の東京都の市町村	124	8.4
3 東京都23区内	375	25.5
4 東京都外	45	3.1
(無回答)	92	6.3
合 計	1,468	100.0



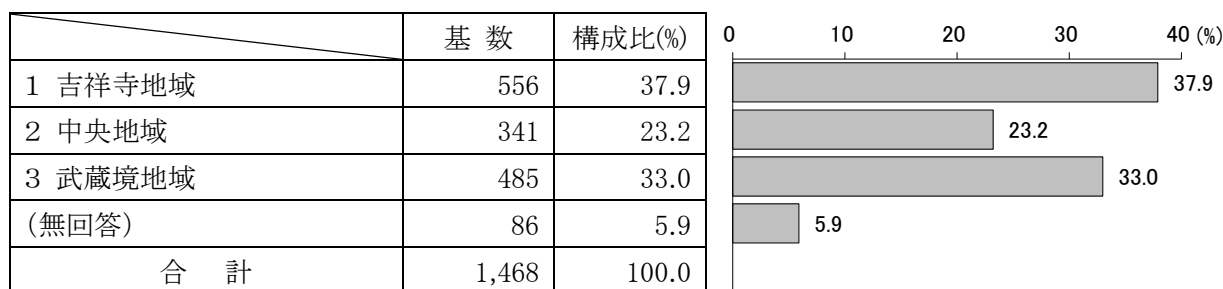
## 8 居住年数



## 9 居住町名



## 9-1 居住地域※

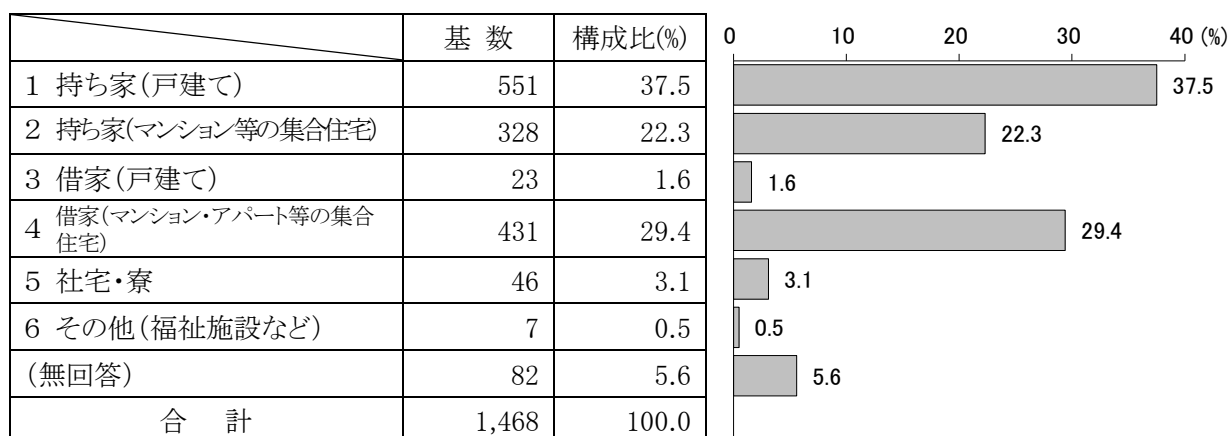


※吉祥寺地域 …(吉祥寺東町、吉祥寺南町、御殿山、吉祥寺本町、吉祥寺北町)

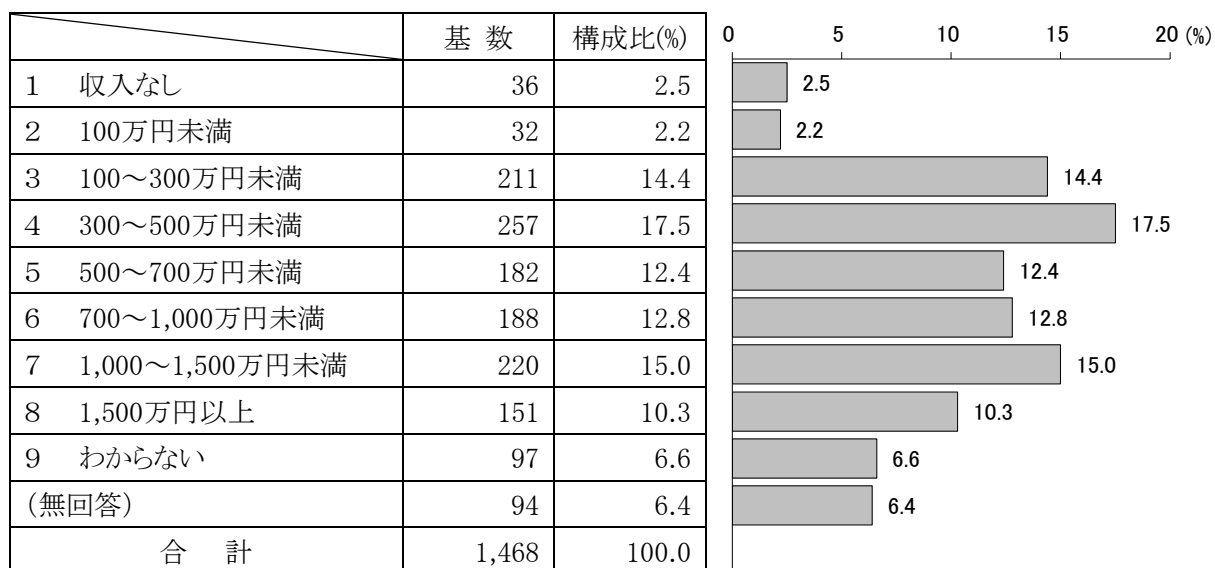
中央地域 …(中町、西久保、緑町、八幡町)

武蔵境地域 …(関前、境、境南町、桜堤)

## 10 住宅の種類



## 11 世帯収入





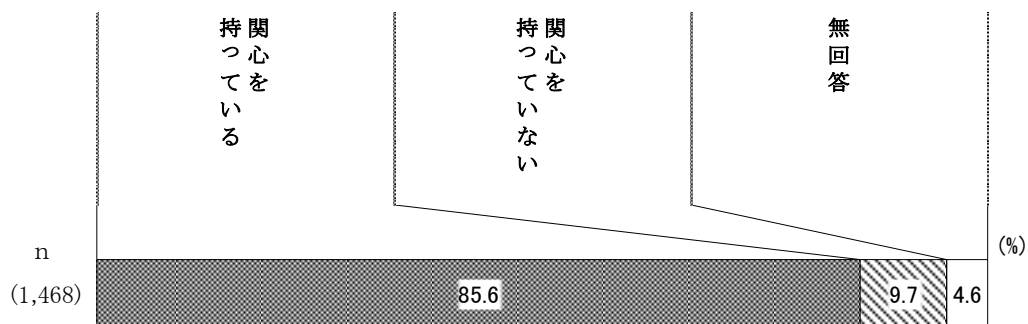
## 5 平和・多文化共生について

### 5-1 「平和」についての関心の有無

◎ 「関心を持っている」が8割台半ばで高い。

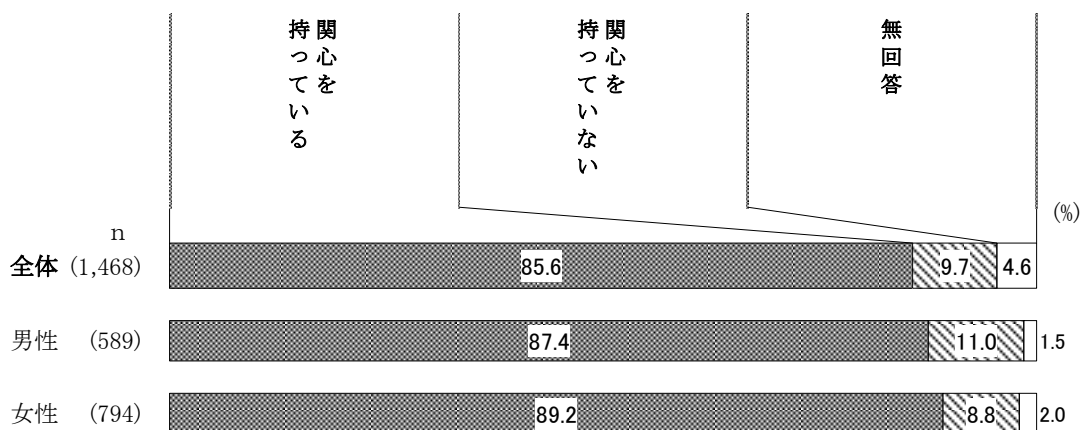
問24 あなたは普段から、「平和」について関心を持っていますか。(○は1つ)

図表5-1 「平和」についての関心の有無



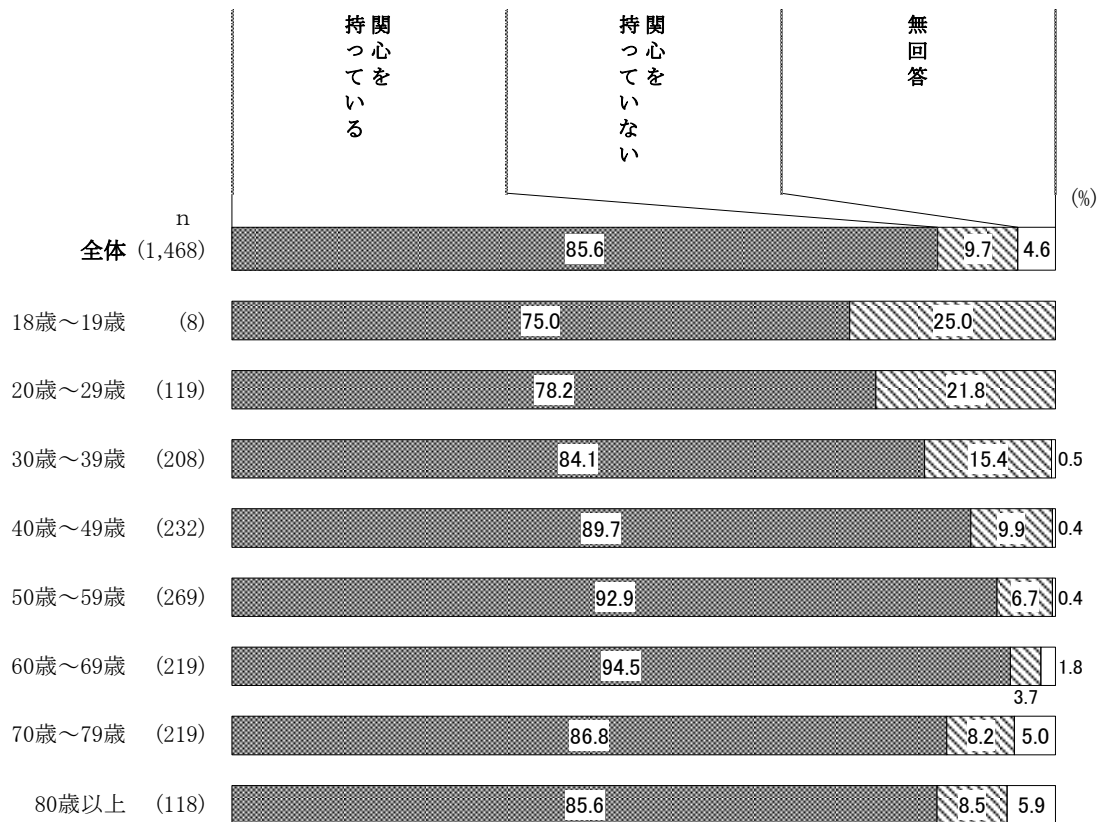
「平和」についての関心の有無は、「関心を持っている」(85.6%)が8割台半ばと最も高くなっている一方、「関心を持っていない」(9.7%)は約1割である。(図表5-1)

図表5-2 「平和」についての関心の有無(性別)



性別で見ると、「関心を持っている」は、男女ともに8割台後半と高くなっている。(図表5-2)

図表5-3 「平和」についての関心の有無(年代別)



年代別で見ると、「興味を持っている」は、60～69歳で9割台半ば、50～59歳で9割台前半と高く、70歳以降は年代が下がるほど低くなる傾向となっている。一方、「興味を持っていない」は、20～29歳で2割台前半と高くなっている。(図表5-3)

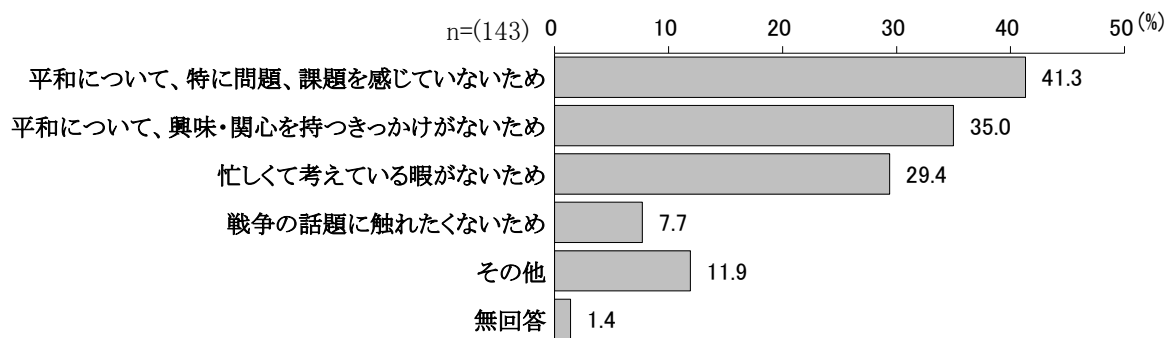
## 5-2 関心を持っていない理由

◎ 「平和について、特に問題、課題を感じていないため」が4割台前半で高い。

【問24で「関心を持っていない」を選んだ方にお尋ねします。】

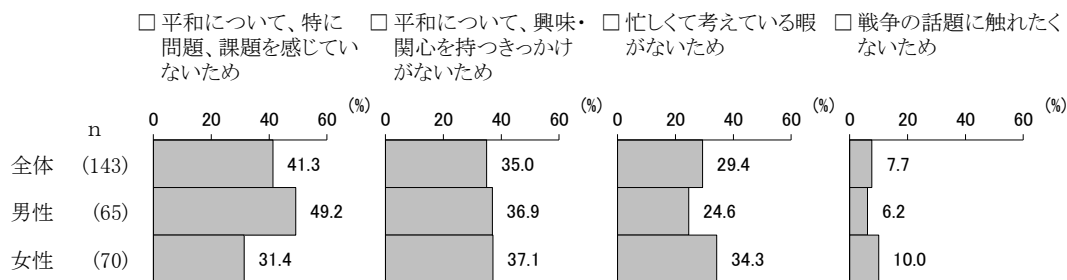
問24-1 あなたが問24で回答したように思う理由に○をしてください。(○はいくつでも)

図表5-4 関心を持っていない理由



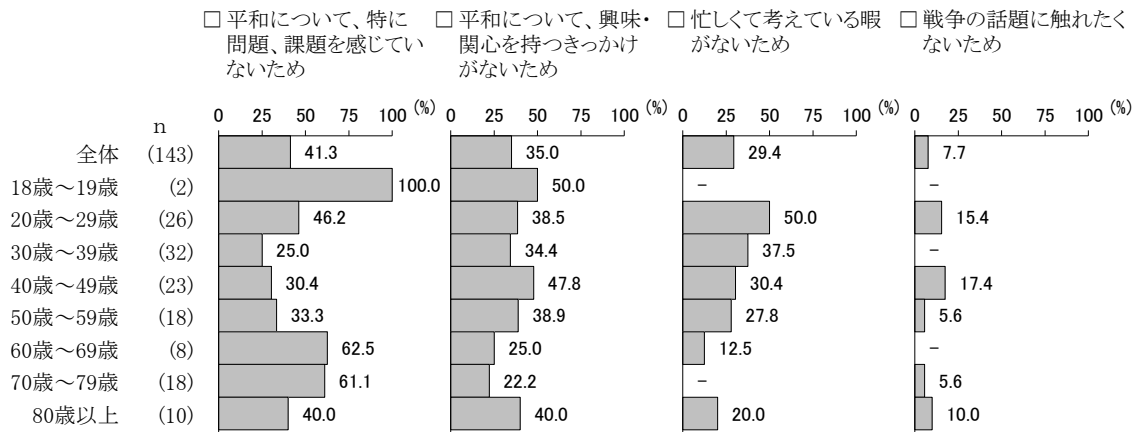
関心を持っていない理由は、「平和について、特に問題、課題を感じていないため」(41.3%)が4割台前半で最も高く、次いで「平和について、興味・関心を持つきっかけがないため」(35.0%)が3割台半ば、「忙しくて考えている暇がないため」(29.4%)が約3割で続く。(図表5-4)

図表5-5 関心を持っていない理由(性別)



性別で見ると、「平和について、特に問題、課題を感じていないため」は、男性の方が女性より17.8ポイント高くなっている。一方、「忙しくて考えている暇がないため」は、女性の方が男性より9.7ポイント高くなっている。(図表5-5)

図表5-6 関心を持っていない理由(年代別)



年代別で見ると、「平和について、特に問題、課題を感じていないため」は、70歳～79歳で6割台前半と高くなっている。「平和について、興味・関心を持つきっかけがないため」は、40歳～49歳で4割台後半と高くなっている。「忙しくて考えている暇がないため」は、20歳～29歳で5割と最も高くなっている。(図表5-6)

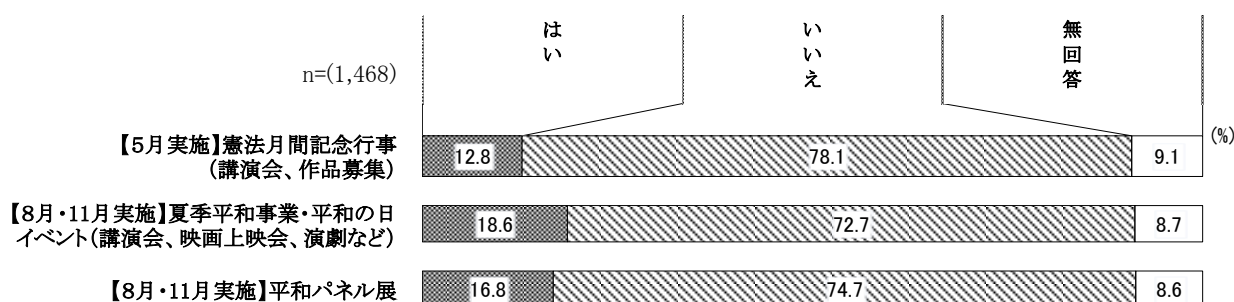
### 5-3 市の平和事業の認知状況

◎ 「はい（知っている）」は、〔夏季平和事業・平和の日イベント（講演会、映画上映会、演劇など）〕（18.6%）、〔平和パネル展〕（16.8%）で1割台後半である。

問25 市が平和事業（憲法月間記念行事、夏季平和事業、平和の日イベント、平和パネル展など）を行っています。

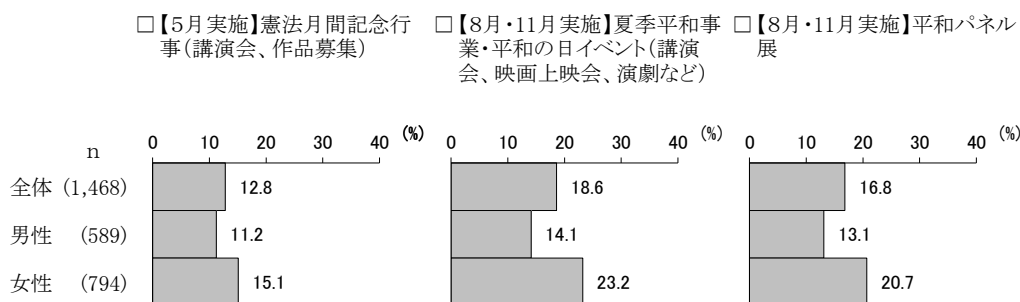
①あなたは、これらの事業を知っていますか。（○は項目ごとに、それぞれ1つ）

図表5-7 市の平和事業の認知状況



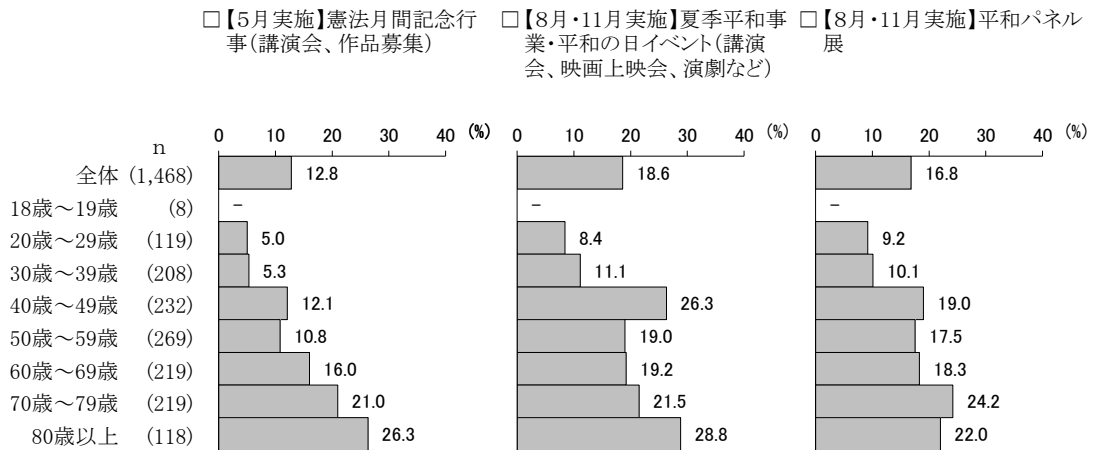
市の平和事業の認知状況をみると、いずれの事業も「いいえ」が7割を超えているのに対し、「はい（知っている）」は、〔夏季平和事業・平和の日イベント（講演会、映画上映会、演劇など）〕（18.6%）、〔平和パネル展〕（16.8%）が1割台後半と高く、次いで、〔憲法月間記念行事（講演会、作品募集）〕（12.8%）が1割台前半である。（図表5-7）

図表5-8 市の平和事業の認知状況（「はい」の割合、性別）



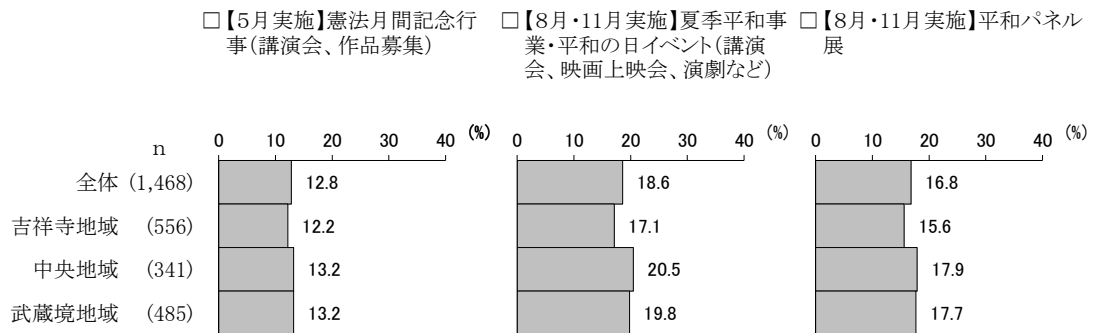
市の平和事業について、「はい（知っている）」割合を、性別で見ると、女性の方が男性より高い傾向となっており、〔夏季平和事業・平和の日イベント（講演会、映画上映会、演劇など）〕は、女性の方が男性より9.1ポイント、〔平和パネル展〕も女性の方が男性より7.6ポイント高くなっている。（図表5-8）

図表5-9 市の平和事業の認知状況(「はい」の割合、年代別)



年代別で見ると、いずれもおおむね年代が上がるにつれて高くなる傾向にあり、〔憲法月間記念行事(講演会、作品募集)〕、〔夏季平和事業・平和の日イベント(講演会、映画上映会、演劇など)〕は80歳以上で2割台後半と最も高くなっている。〔平和パネル展〕は、70歳～79歳で2割台半ば、80歳以上で2割台前半と高くなっている。(図表5-9)

図表5-10 市の平和事業の認知状況(「はい」の割合、居住地域別)



居住地域別で見ると、いずれも中央地区が最も高くなっているが、地域による大きな違いは見られない。(図表5-10)

## 5-4 市の平和事業の参加状況

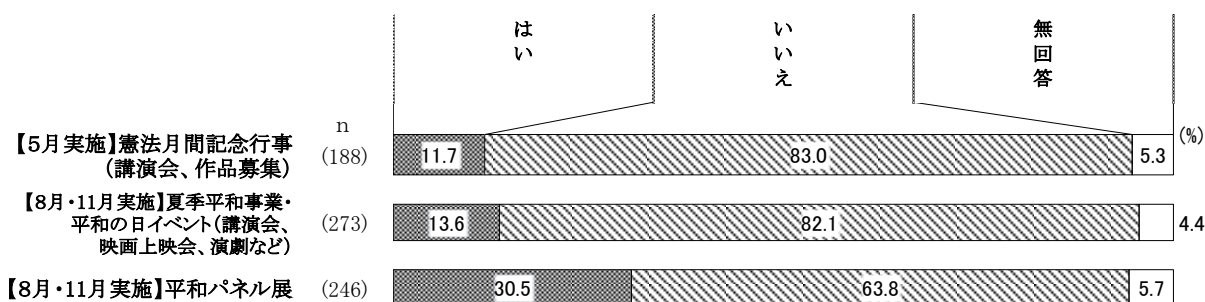
◎ 「はい（参加したことがある）」は、「平和パネル展」（30.5%）が3割と高い。

問25 市が平和事業（憲法月間記念行事、夏季平和事業、平和の日イベント、平和パネル展など）を行っています。

②(①で)「知っている」に○をつけた事業の中で、参加したことがある事業はありますか。

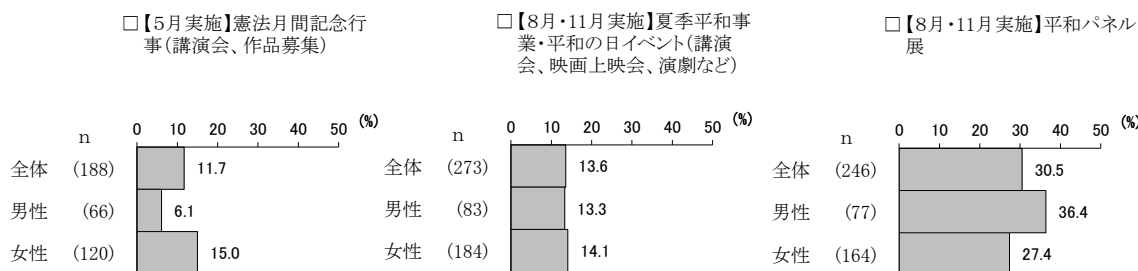
(○は項目ごとに、それぞれ1つ)

図表5-11 市の平和事業の参加状況



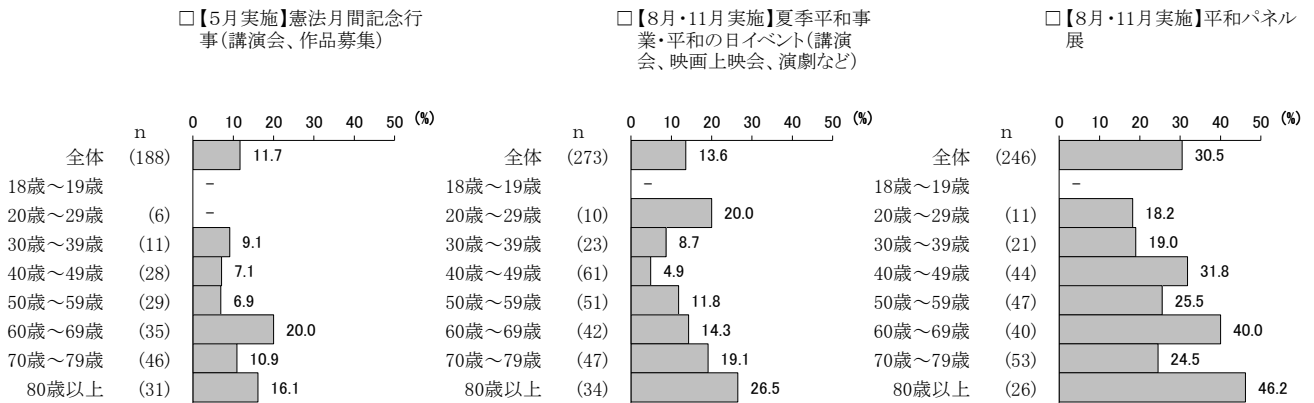
市の平和事業を「はい（知っている）」と回答した人の参加状況を見ると、「平和パネル展」を除き「いいえ」が「憲法月間記念行事（講演会、作品募集）」（83.0%）と「夏季平和事業・平和の日イベント（講演会、映画上映会、演劇など）」（82.1%）で8割を超えているのに対し、「はい（参加したことがある）」は、「平和パネル展」（30.5%）が3割と最も高く、次いで「夏季平和事業・平和の日イベント（講演会、映画上映会、演劇など）」（13.6%）、「憲法月間記念行事（講演会、作品募集）」（11.7%）がともに1割前半である。（図表5-11）

図表5-12 市の平和事業の参加状況（「はい」の割合、性別）



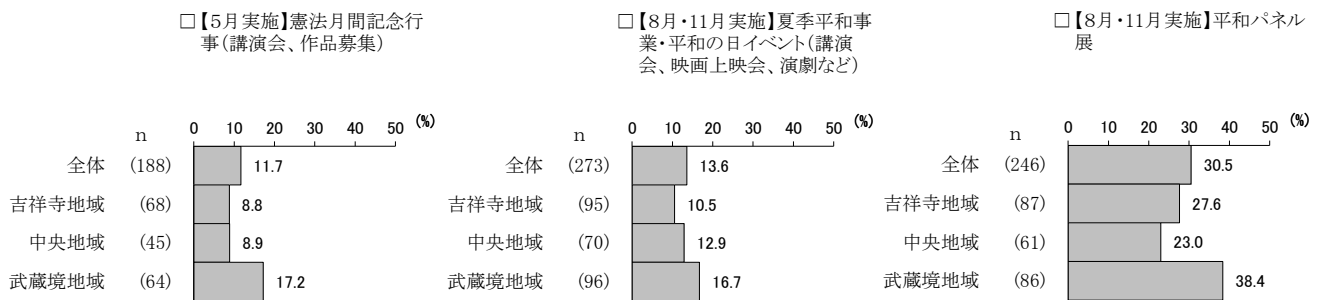
市の平和事業について、「はい（参加したことがある）」割合を、性別で見ると、「憲法月間記念行事（講演会、作品募集）」は、女性の方が男性より8.9ポイント高くなっている。一方、「平和パネル展」は男性の方が女性より9.0ポイント高くなっている。（図表5-12）

図表5-13 市の平和事業の参加状況(「はい」の割合、年代別)



年代別で見ると、〔憲法月間記念行事(講演会、作品募集)〕は、60歳～69歳で2割と最も高くなっている。80歳以上で〔平和パネル展〕が4割台後半、〔夏季平和事業・平和の日イベント(講演会、映画上映会、演劇など)〕が2割台後半と、ともに最も高くなっている。(図表5-13)

図表5-14 市の平和事業への参加経験(「はい」の割合、居住地域別)



居住地域別で見ると、いずれも武蔵境地域で最も高く、〔平和パネル展〕が3割台後半、〔憲法月間記念行事(講演会、作品募集)〕、〔夏季平和事業・平和の日イベント(講演会、映画上映会、演劇など)〕が1割台後半となっている。(図表5-14)



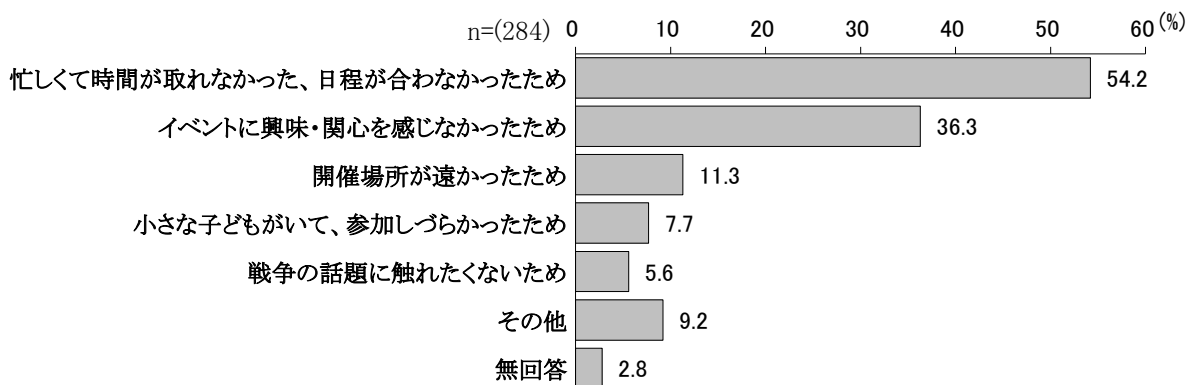
## 5-5 参加しなかった理由

◎ 「忙しくて時間が取れなかった、日程が合わなかったため」が5割台半ばで高い。

【問25-1は、問25でいずれかの事業を①知っている「はい」→ ②参加したことがある「いいえ」を選んだ方にお尋ねします。】

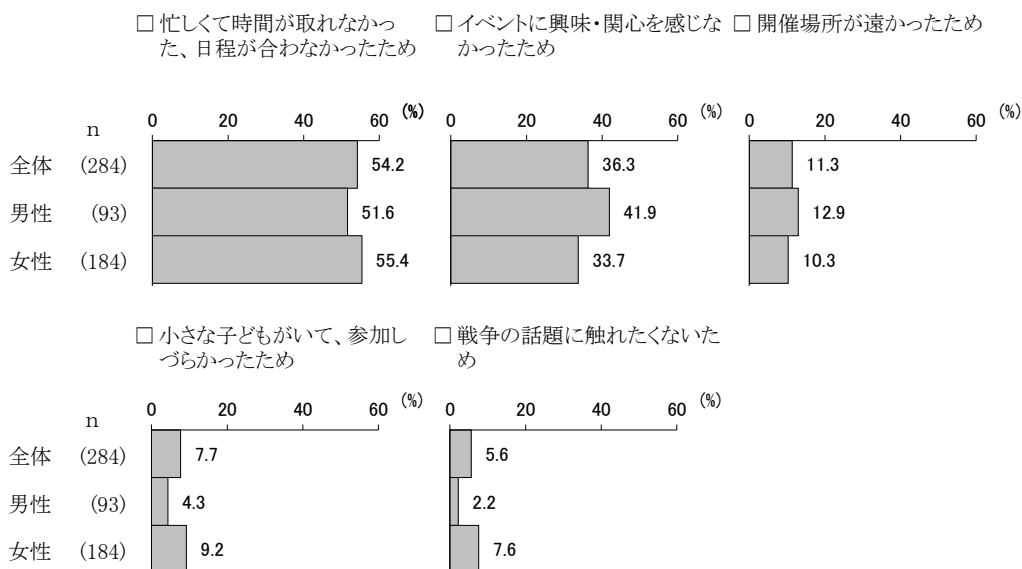
問25-1 あなたが平和事業に参加しなかった理由に○をしてください。(○はいくつでも)

図表5-15 参加しなかった理由



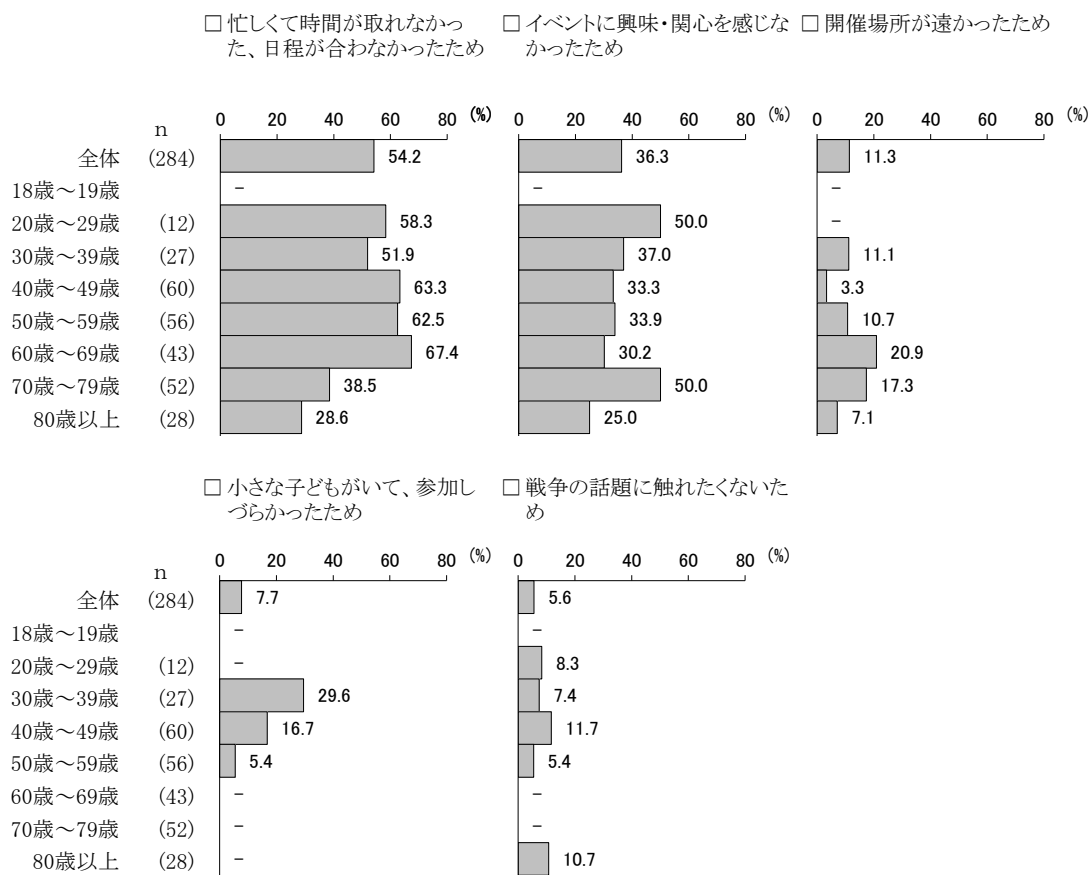
参加しなかった理由は、「忙しくて時間が取れなかった、日程が合わなかったため」(54.2%)が5割台半ばで過半数を超えている。次いで「イベントに興味・関心を感じなかったため」(36.3%)が3割台後半、「開催場所が遠かったため」(11.3%)が1割台前半で続く。(図表5-15)

図表5-16 参加しなかった理由(性別)



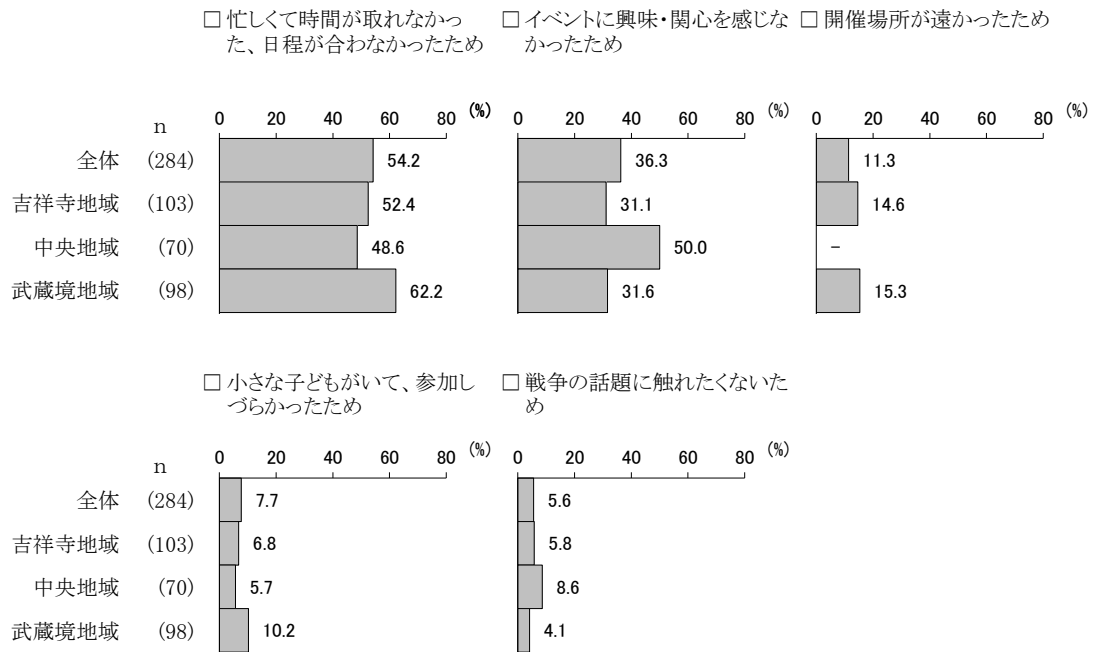
性別で見ると、「イベントに興味・関心を感じなかったため」は、男性の方が女性より8.2ポイント高くなっている。一方、「戦争の話題に触れたくないため」は、女性の方が男性より5.4ポイント高くなっている。(図表5-16)

図表5-17 参加しなかった理由(年代別)



年代別で見ると、「忙しくて時間が取れなかった、日程が合わなかったため」は、60歳～69歳で6割台後半と最も高くなっている。「イベントに興味・関心を感じなかったため」は、20歳～29歳、70歳～79歳で5割と最も高くなっている。「小さな子どもがいて、参加しづらかったため」は、30歳～39歳で約3割と最も高くなっている。(図表5-17)

図表5-18 参加しなかった理由(居住地域別)



居住地域別で見ると、「忙しくて時間が取れなかった、日程が合わなかったため」は、武蔵境地域で6割台前半と最も高くなっている。「イベントに興味・関心を感じなかったため」は、中央地域で5割と最も高くなっている。(図表5-18)

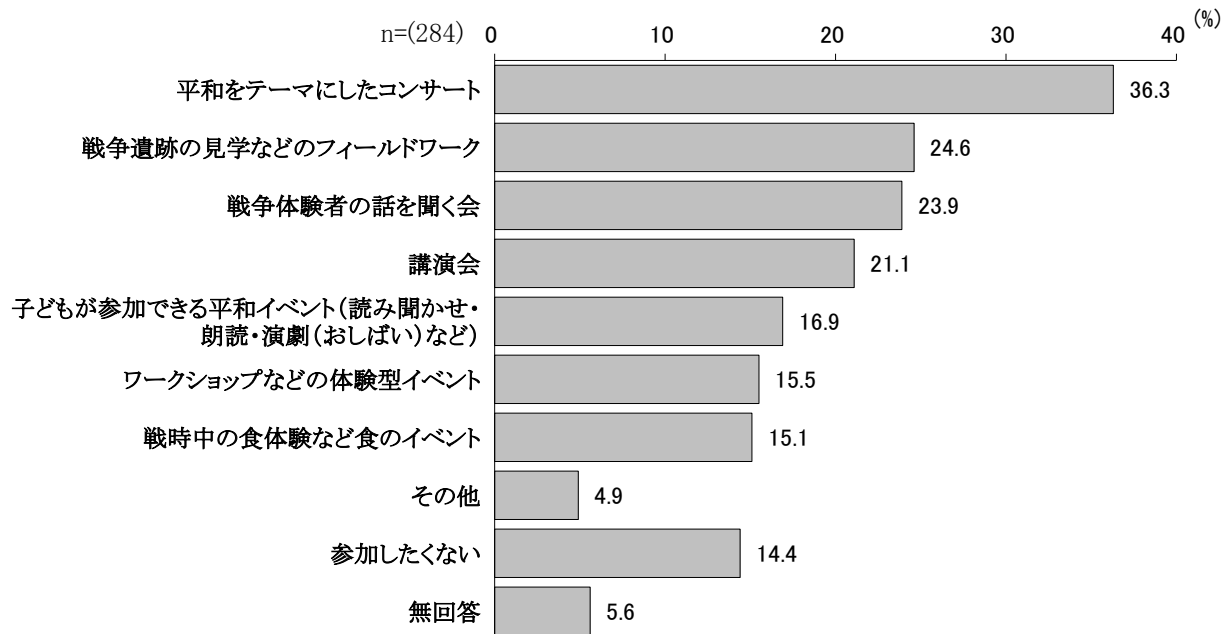
## 5-6 参加したい事業・イベント

◎ 「平和をテーマにしたコンサート」が3割台後半で高い。

【問25-2は、問25でいずれかの事業を①知っている「はい」→ ②参加したことがある「いいえ」を選んだ方にお尋ねします。】

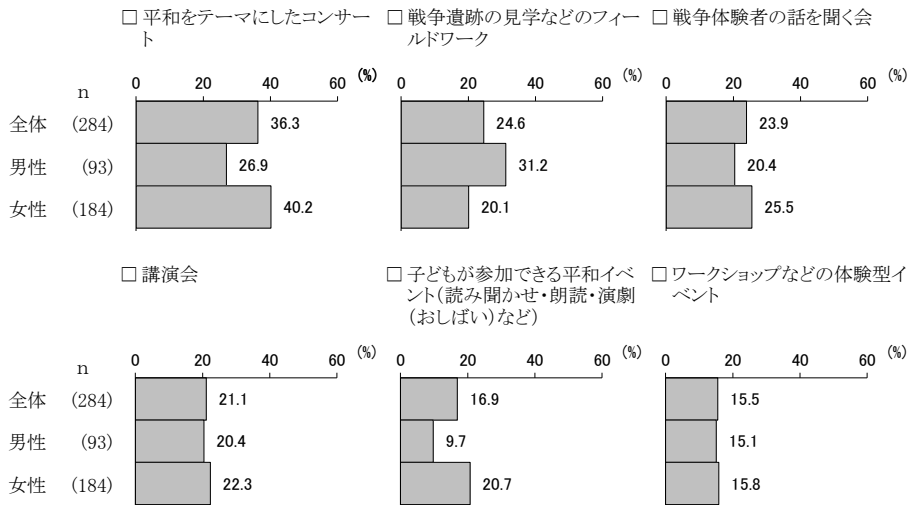
問25-2 どのような事業・イベントであれば参加したいですか。(〇はいくつでも)

図表5-19 参加したい事業・イベント



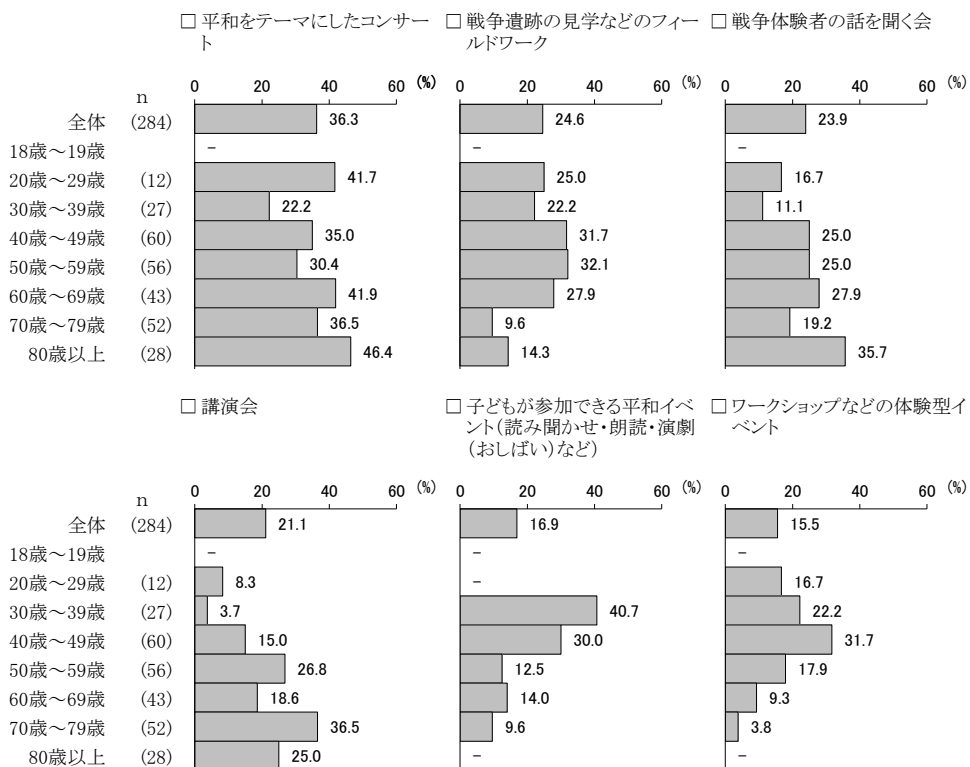
参加したい事業・イベントは、「平和をテーマにしたコンサート」(36.3%)が3割台後半で最も高くなっている。次いで「戦争遺跡の見学などのフィールドワーク」(24.6%)が2割台半ば、「戦争体験者の話を聞く会」(23.9%)、「講演会」(21.1%)が2割台前半で続く。(図表5-19)

図表5-20 参加したい事業・イベント(性別) 上位6項目



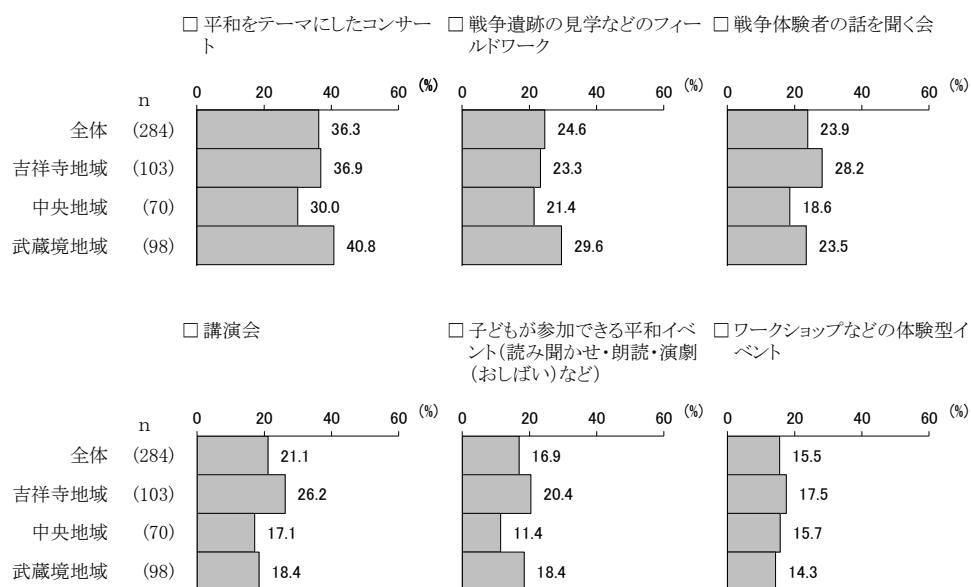
上位6項目について、性別で見ると、「平和をテーマにしたコンサート」は、女性の方が男性より13.3ポイント高く、「子どもが参加できる平和イベント(読み聞かせ・朗読・演劇(おしばい)など)」で11.0ポイント高くなっている。一方、「戦争遺跡の見学などのフィールドワーク」は、男性の方が女性より11.1ポイント高くなっている。(図表5-20)

図表5-21 参加したい事業・イベント(年代別) 上位6項目



年代別で見ると、「平和をテーマにしたコンサート」は、80歳以上で4割台後半と最も高く、「戦争体験者の話を聞く会」でも3割台後半と最も高くなっている。「講演会」は、70歳~79歳で3割台後半と最も高くなっている。「子どもが参加できる平和イベント(読み聞かせ・朗読・演劇(おしばい)など)」は、30歳~39歳で4割と最も高くなっている。(図表5-21)

図表5-22 参加したい事業・イベント(居住地域別) 上位6項目



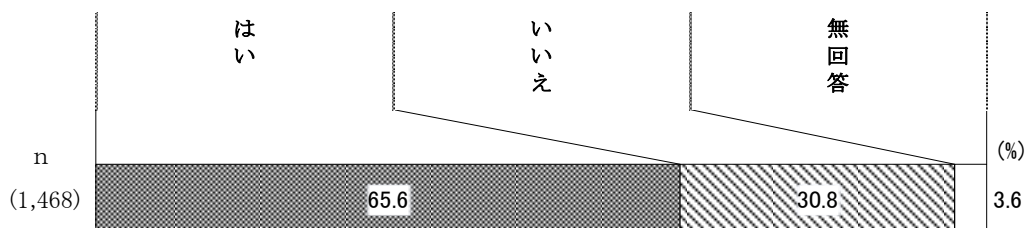
居住地域別で見ると、「平和をテーマにしたコンサート」は、武蔵境地域で4割と最も高く、「戦争遺跡の見学などのフィールドワーク」でも約3割と最も高くなっている。「戦争体験者の話を聞く会」、「講演会」は、吉祥寺地域でともに2割台後半と最も高くなっている。(図表5-22)

## 5-7 戦時中の中島飛行機武蔵製作所の認知度

◎ 「はい（知っている）」が6割台半ばで高い。

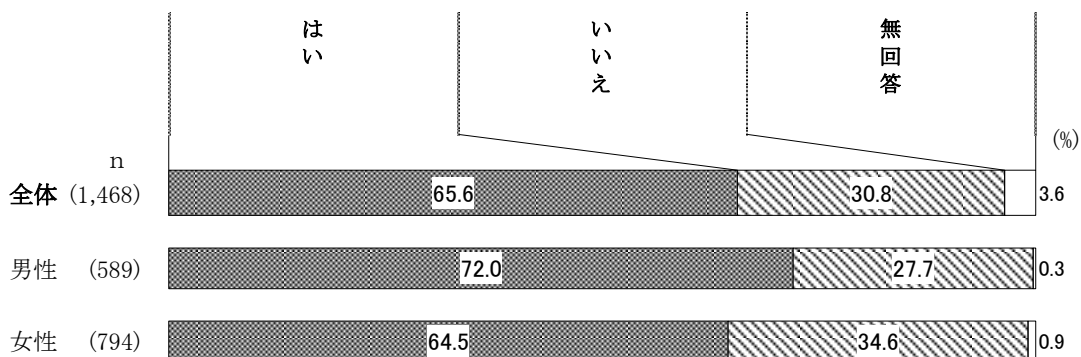
問26 あなたは、現在の都立中央公園がある場所に、戦時中、航空機のエンジン工場（中島飛行機武蔵製作所）があったことを知っていますか。（○は1つ）

図表5-23 戦時中の中島飛行機武蔵製作所の認知度



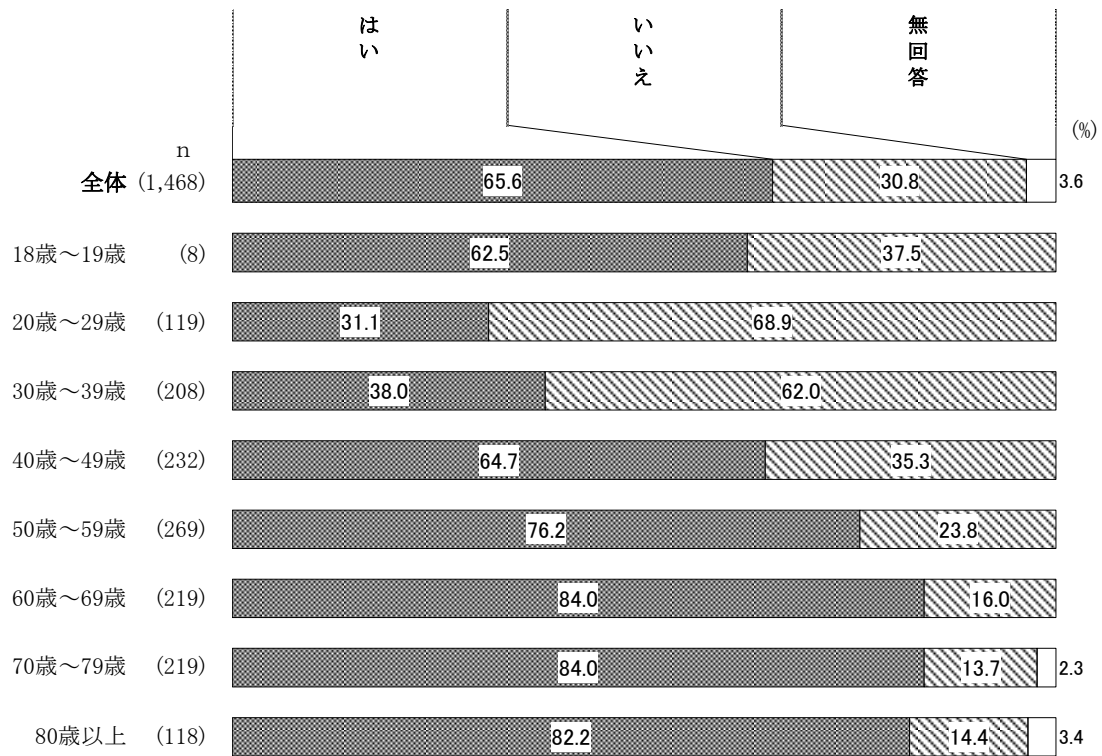
戦時中の中島飛行機武蔵製作所について、「はい（知っている）」（65.6%）と回答した人が6割台半ば、「いいえ」（30.8%）が3割である。（図表5-23）

図表5-24 戦時中の中島飛行機武蔵製作所の認知度（性別）



性別で見ると、「はい（知っている）」は、男性の方が女性より7.5ポイント高くなっている。（図表5-24）

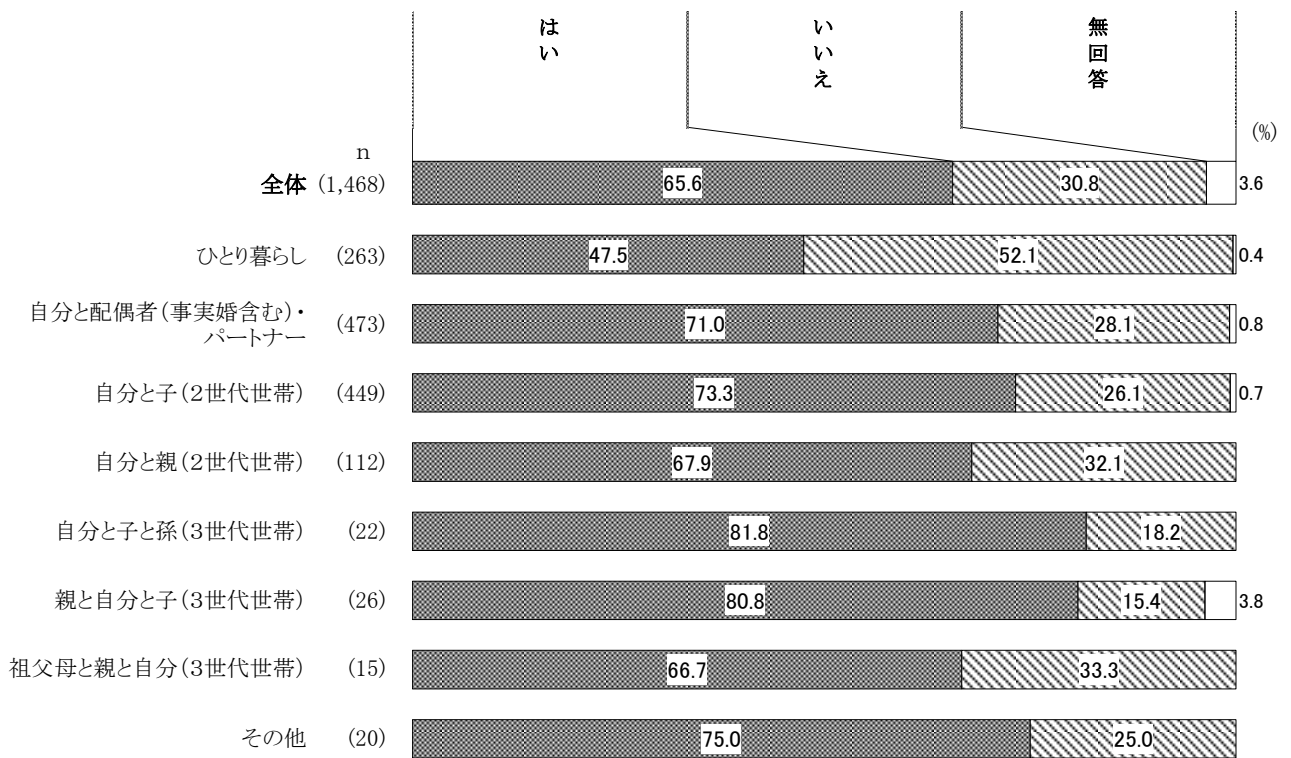
図表5-25 戦時中の中島飛行機武蔵製作所の認知度(年代別)



年代別で見ると、「はい(知っている)」は、おおむね年代が上がるほど増加する傾向となっており、60～69歳、70～79歳、80歳以上で8割を超えて高くなっている。一方で、「いいえ」は、20～29歳で6割台後半、30歳～39歳で6割台前半と高くなっている。(図表5-25)

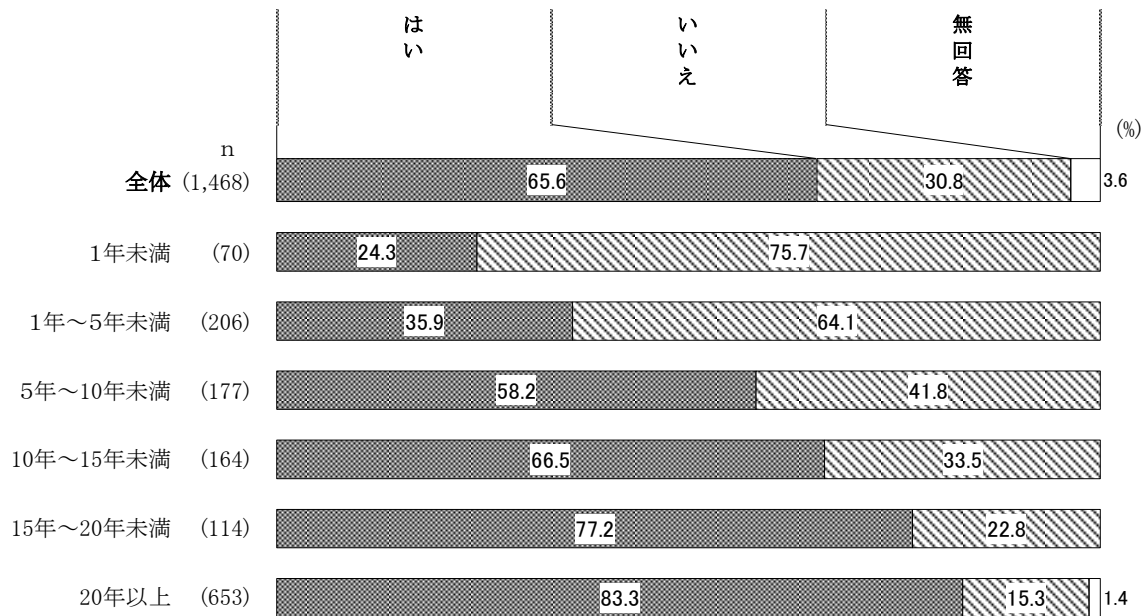


図表5-26 戦時中の中島飛行機武蔵製作所の認知度(家族構成別)



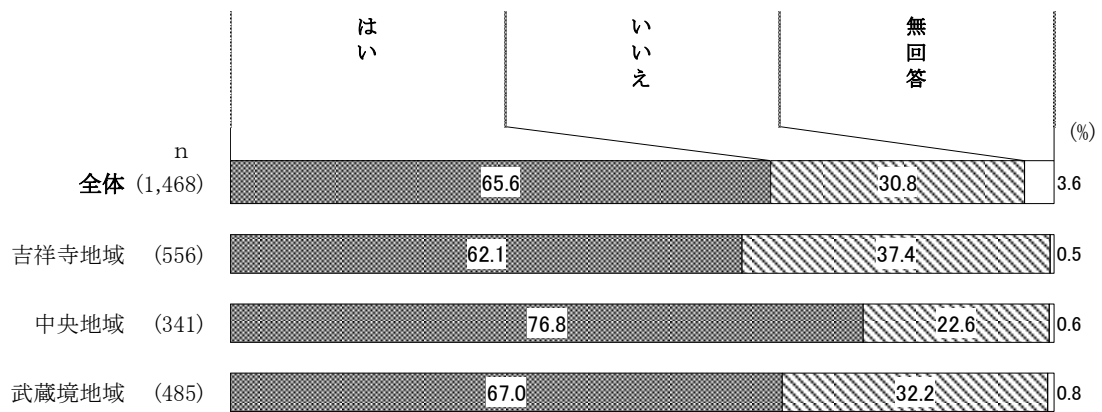
家族構成別で見ると、「はい(知っている)」は、自分と子と孫(3世代世帯)、親と自分と子(3世代世帯)で8割を超えて高くなっている。一方で、「いいえ」はひとり暮らしで5割台前半と過半数を超えている。(図表5-26)

図表5-27 戦時中の中島飛行機武蔵製作所の認知度(居住年数別)



居住年数別で見ると、「はい(知っている)」は、年数が長くなるほど増加する傾向となっており、20年以上で8割台前半と最も高くなっている。一方で、「いいえ」は1年未満で7割台半ば、1年～5年未満で6割台半ばとそれぞれ過半数を超えている。(図表5-27)

図表5-28 戦時中の中島飛行機武蔵製作所の認知度(居住地域別)



居住地域別で見ると、「はい(知っている)」は、中央地域で7割台後半と最も高くなっており、すべての地域で6割を超えている。(図表5-28)

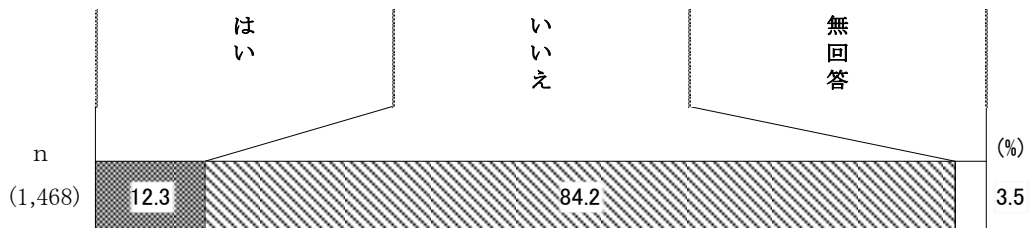
## 5-8 「武蔵野市平和の日」(11月24日)の認知度

◎ 「いいえ」が8割台半ばで高く、「はい(知っている)」が1割台前半である。

問27 市は11月24日\*を「武蔵野市平和の日」に制定していることを知っていますか。(○は1つ)

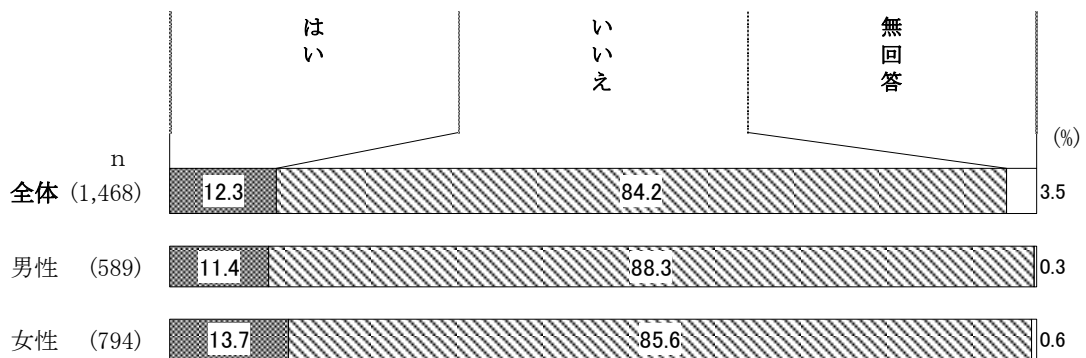
\*：11月24日：第二次世界大戦中、市内に米軍による最初に空襲があった日

図表5-29 「武蔵野市平和の日」(11月24日)の認知度



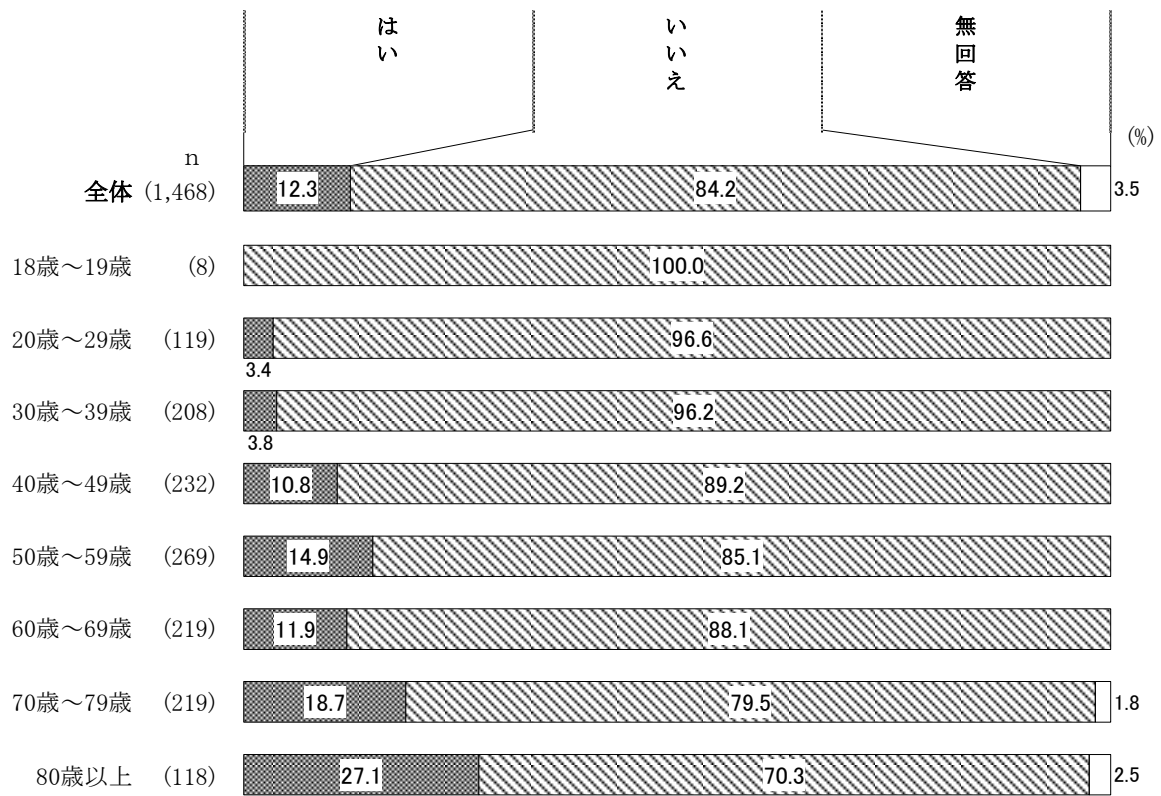
市が11月24日を「武蔵野市平和の日」に制定していることは、「いいえ」(84.2%)と回答した人が8割以上を占めているのに対し、「はい(知っている)」(12.3%)が1割台前半である。(図表5-29)

図表5-30 「武蔵野市平和の日」(11月24日)の認知度(性別)



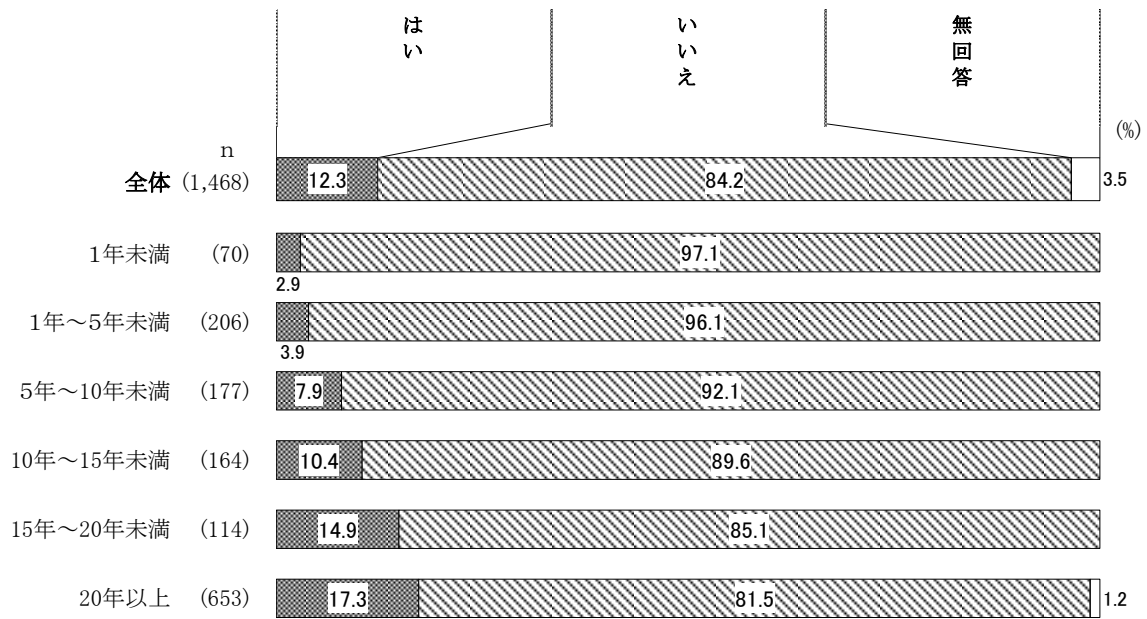
性別で見ると、「はい(知っている)」は、女性の方が男性より2.3ポイント高く、「いいえ」は男女ともに8割を超えている。(図表5-30)

図表5-31 「武蔵野市平和の日」(11月24日)の認知度(年代別)



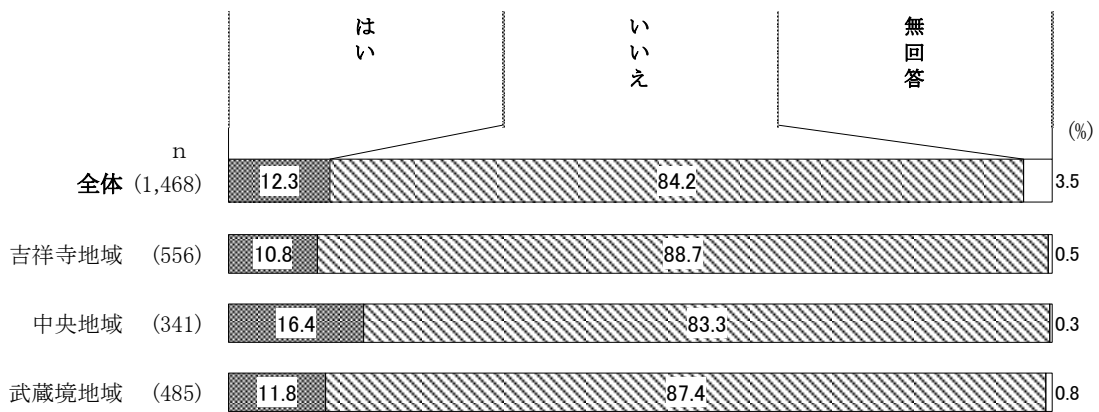
年代別で見ると、「はい(知っている)」は、おおむね年代が上がるほど増加する傾向となっており、80歳以上で2割台後半と最も高くなっている。一方で、「いいえ」は、20～29歳、30歳～39歳で9割を超えて高くなっており、すべての年代で7割を超えている。(図表5-31)

図表5-32 「武蔵野市平和の日」(11月24日)の認知度(居住年数別)



居住年数別で見ると、「はい(知っている)」は、年数が長くなるほど増加する傾向となっており、20年以上で1割台後半と最も高くなっている。一方で、「いいえ」は1年未満、1年～5年未満で9割台後半と高くなっており、すべての年数で8割を超えている。(図表5-32)

図表5-33 「武蔵野市平和の日」(11月24日)の認知度(居住地域別)



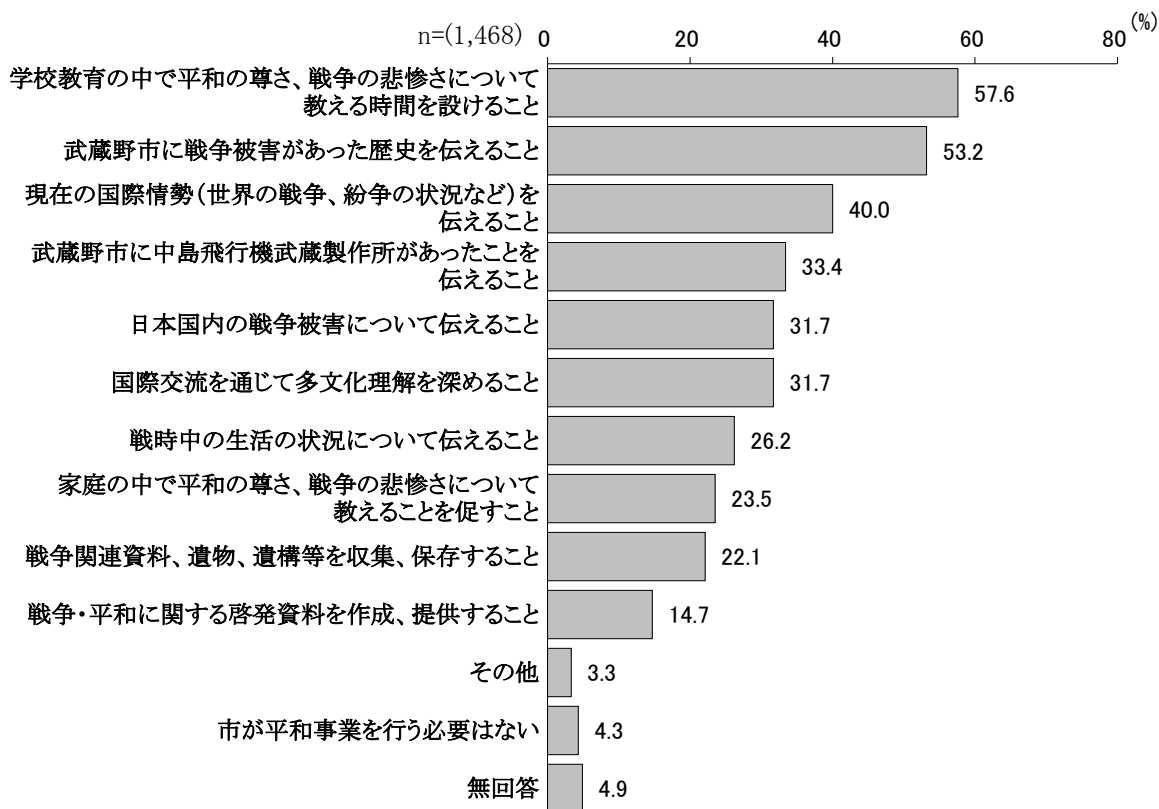
居住地域別で見ると、「はい(知っている)」は、中央地域で1割台後半と最も高くなっている。一方、「いいえ」は、すべての地域で8割を超えている。(図表5-33)

## 5-9 平和施策を進めるうえで市が取り組むべきこと

◎ 「学校教育の中で平和の尊さ、戦争の悲惨さについて教える時間を設けること」が5割台後半で最も高い。

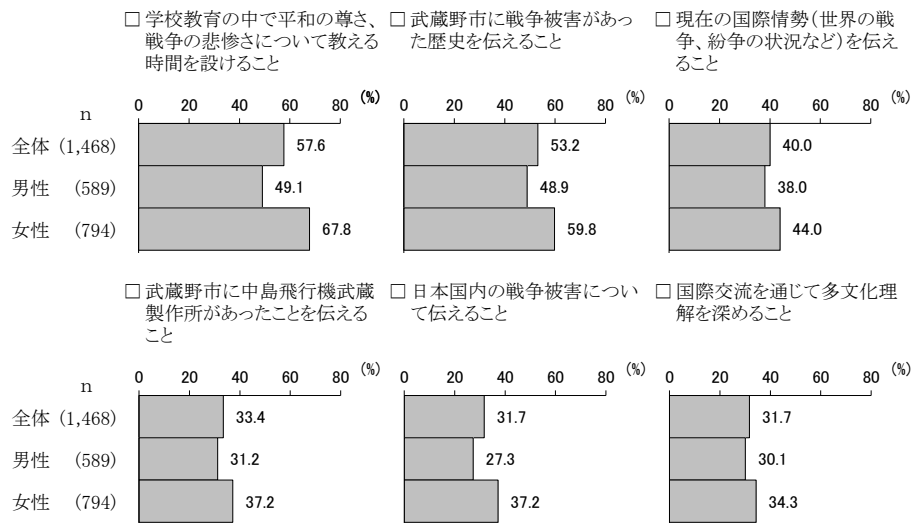
問28 平和施策を進めるうえで、市が取り組むべきことは何だと思えますか。(〇はいくつでも)

図表5-34 平和施策を進めるうえで市が取り組むべきこと



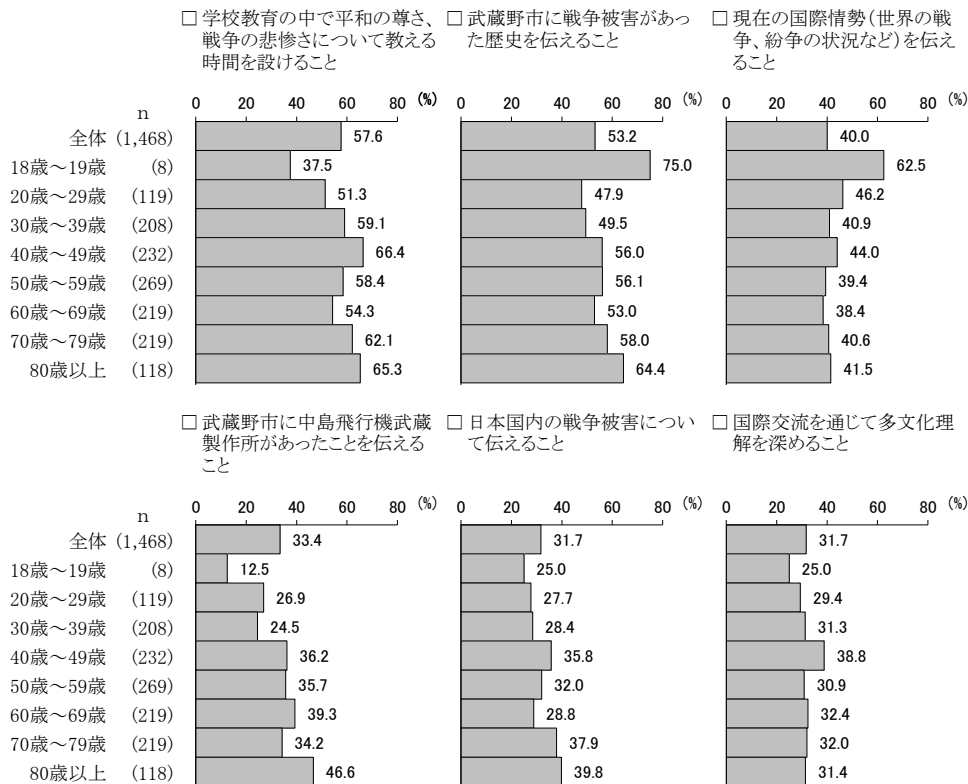
平和施策を進めるうえで市が取り組むべきことは、「学校教育の中で平和の尊さ、戦争の悲惨さについて教える時間を設けること」(57.6%)が5割台後半、「武蔵野市に戦争被害があった歴史を伝えること」(53.2%)が5割台前半と過半数を超えている。次いで、「現在の国際情勢(世界の戦争、紛争の状況など)を伝えること」(40.0%)が4割、「武蔵野市に中島飛行機武蔵製作所があったことを伝えること」(33.4%)が3割台前半で続いている。(図表5-34)

図表5-35 平和施策を進めるうえで市が取り組むべきこと(性別) 上位6項目



上位6項目について、性別で見ると、女性の方が男性よりも高い傾向となっており、「学校教育の中で平和の尊さ、戦争の悲惨さについて教える時間を設けること」は、女性の方が男性より18.7ポイント、「武蔵野市に戦争被害があった歴史を伝えること」も女性の方が男性より10.9ポイント高くなっている。(図表5-35)

図表5-36 平和施策を進めるうえで市が取り組むべきこと(年代別) 上位6項目



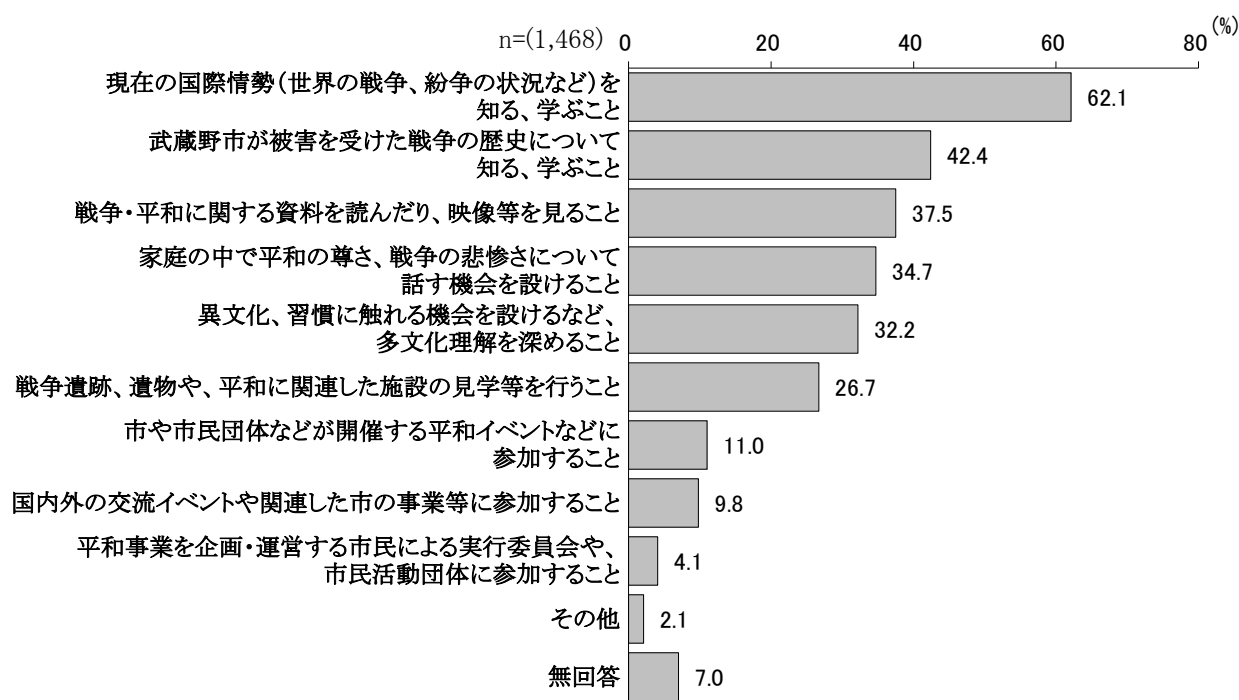
年代別で見ると、「学校教育の中で平和の尊さ、戦争の悲惨さについて教える時間を設けること」は、40歳～49歳が6割台後半と最も高く、80歳以上で6割台半ばとなっている。「武蔵野市に戦争被害があった歴史を伝えること」は、80歳以上が6割台半ばと高くなっている。(図表5-36)

## 5-10 平和の尊さ、戦争の悲惨さを継承するために自身が取り組めること

◎ 「現在の国際情勢（世界の戦争、紛争の状況など）を知る、学ぶこと」が6割台前半で高い。

問29 平和の尊さ、戦争の悲惨さを次世代に継承するために、あなたが取り組めることはどのようなことだと思いますか。（〇はいくつでも）

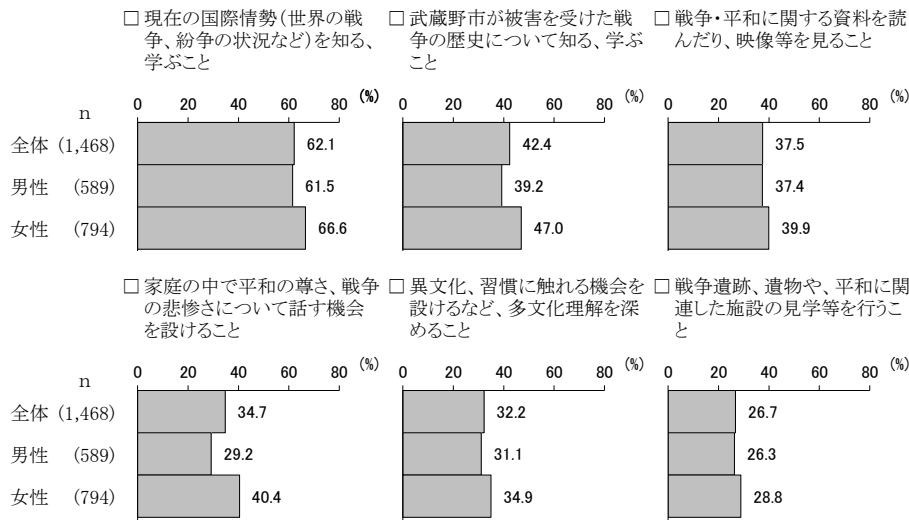
図表5-37 平和の尊さ、戦争の悲惨さを継承するために自身が取り組めること



平和の尊さ、戦争の悲惨さを次世代に継承するために自身が取り組めることは、「現在の国際情勢（世界の戦争、紛争の状況など）を知る、学ぶこと」（62.1%）が最も高く6割を超えている。次いで、「武蔵野市が被害を受けた戦争の歴史について知る、学ぶこと」（42.4%）が4割台前半、「戦争・平和に関する資料を読んだり、映像等を見ること」（37.5%）が3割台後半、「家庭の中で平和の尊さ、戦争の悲惨さについて話す機会を設けること」（34.7%）が3割台半ば、「異文化、習慣に触れる機会を設けるなど、多文化理解を深めること」（32.2%）が3割台前半と続く。（図表5-37）

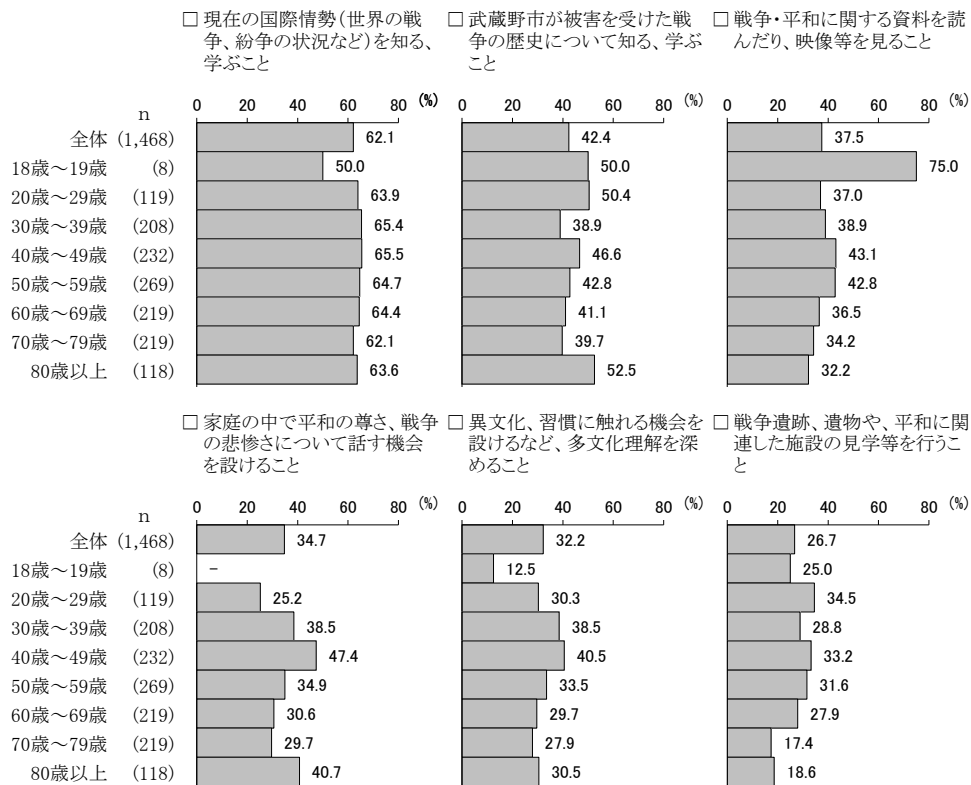


図表5-38 平和の尊さ、戦争の悲惨さを継承するために自身が取り組めること(性別) 上位6項目



上位6項目について、性別で見ると、女性の方が男性よりも高い傾向となっており、「家庭の中で平和の尊さ、戦争の悲惨さについて話す機会を設けること」は、女性の方が男性より11.2ポイント、「武蔵野市が被害を受けた戦争の歴史について知る、学ぶこと」も女性の方が男性より7.8ポイント高くなっている。(図表5-38)

図表5-39 平和の尊さ、戦争の悲惨さを継承するために自身が取り組めること(年代別) 上位6項目



年代別で見ると、「現在の国際情勢(世界の戦争、紛争の状況など)を知る、学ぶこと」は、20歳以上の年代で6割を超えて高くなっている。「武蔵野市が被害を受けた戦争の歴史について知る、学ぶこと」は、80歳以上が5割前半と最も高くなっている。「家庭の中で平和の尊さ、戦争の悲惨さについて話す機会を設けること」は、40歳~49歳が4割後半と最も高くなっている。(図表5-39)

## 6 自由回答

### 平和(42件)

分類	内容	性別	年齢	地域
平和を望む	ロシアのウクライナ侵攻は既に8ヶ月に及んでおり、ニュース等で戦争の悲惨な状況を映像で見るたびに心を痛めています。あまり過去の戦争の話題には触れたくないと思いますが、終戦記念日が近づくといやでも新聞やテレビで悲惨なニュースに接することに心が暗くなります。いつまでも平和な時代が続くことを願っております。	女性	70歳～79歳	武蔵境地域
	平和は大切なことです。戦争だけが平和を伝える手段ではないと思います。	女性	50歳～59歳	中央地域
子どものうちから平和の大切さを教育	せっかく中島飛行場跡地に市役所、公園、競技場等が立地しているのに、空襲情報だけが伝えられている気がします。当時市民だったであろう多数の従業員の生活、戦前から何を作りどんな役割があったのか総合的な情報を後世(学校で)に積極的に伝えることが平和教育だと思います。	男性	50歳～59歳	吉祥寺地域
	やはり小さい頃から、日本であった戦争の知識をしっかり伝えるのが重要と感じています。その上で自分はどうすれば回避できるのか考えるよう導くべきです。	女性	40歳～49歳	吉祥寺地域
善悪含めた記録・記憶の伝承	平和の尊さ、戦争の悲惨さは、教えるより実際広島・長崎・沖縄に行き目にし話を聞いて感じる事が大切だと思います。学校や家庭で広島や長崎や沖縄で学べる機会を与えられる助成があればと思います。	女性	60歳～69歳	吉祥寺地域
	遺品などは貴重な資料になるのでぜひとも平和博物館を作ってください。	男性	40歳～49歳	中央地域
市政への要望・意見	他の市の駅前『核反対宣言都市』の大きなモニュメントを見たが、みっともないから止めて欲しいです。当たり前を議論していると思うと悲しいです。	男性	70歳～79歳	武蔵境地域
	抽象的な「平和」ということを議論したり、教育するというよりも、普段の日常の生活を平和にし、外国人も日本人も一緒に生活しながらお互いの良さを学び合い、良くない点は理解したり、修正し合ったりして暮らすことを、支えて行くことが行政の仕事であると思います。	男性	70歳～79歳	吉祥寺地域
	就学期には市の平和に関連した市政に触れることができましたが、成人した現在は日々の生活の中でそのようなことを感じる機会はありません。もう少しアピールしたほうがいいのではないのでしょうか。	女性	40歳～49歳	吉祥寺地域

分類	内容	性別	年齢	地域
日本を取り巻く 国際情勢	平和に関心があっても実際は趣味のようなものです。それを知ったからといって何かできるわけではありません。今は平和な時代だから平和だと気付かない人がほとんどです。何が平和なのか、なんで平和なのか、どうしたら平和でいられるのかを考え知ることの方が大事なのではないのでしょうか。そしてもし、その平和が今のウクライナの様になくなり戦争が起きたらどうしますか。武蔵野市はどうしますか。そういう事を考えていく時期なのだと思います。	女性	50歳～59歳	中央地域
	武蔵野市だけに限らず日本は島国のため、周辺のアジア諸国だけでなく世界情勢について若干他人事のように過ごしていると思います。何ができるのか具体的な政策は直ぐに思い浮かびませんが分かりやすく今起こっている世界の出来事や真実を市政やY o u T u b eなどの情報発信を使って伝えるなど何かすべきだと思います。	女性	40歳～49歳	武蔵境地域
戦争の懸念	平和を唱えても戦争はなくなりません。むしろ平和を追い求める余り、戦争に引き込まれるおそれもあります。	男性	80歳以上	中央地域
	平和に関しては自治体での活動には限界があると思うと同時に市民の平和意識だけでは戦争が防げないのはウクライナを見ても明らかです。	男性	60歳～69歳	武蔵境地域

令和4(2022)年度  
武蔵野市民意識調査

発行 令和5(2023)年3月

発行 武蔵野市 市民部 市民活動推進課  
〒180-8777 東京都武蔵野市緑町2丁目2番28号  
電 話 0422-60-1829(直通)

実施 株式会社サーベイリサーチセンター(本社)  
〒116-8581 東京都荒川区西日暮里2-40-10  
電 話 03-3802-6711(代)